# 研究成果報告書



令和 5 年 6 月 1 2 日現在

機関番号: 32612

研究種目: 基盤研究(B)(特設分野研究)

研究期間: 2017~2022 課題番号: 17KT0061

研究課題名(和文)日常の相互行為における定型性:話し言葉を基盤とした言語構造モデルの構築

科学研究費助成事業

研究課題名(英文)Formulaicity in Everyday Interaction

研究代表者

鈴木 亮子(SUZUKI, Ryoko)

慶應義塾大学・経済学部(日吉)・教授

研究者番号:50306859

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文):人々は文法規則によってその都度文を生成するのではなく、多様な定型表現を駆使してコミュニケーションを行うことが近年主に英語に関して指摘されている。本研究では、英語に比して研究が十分ではない日本語を中心に、日常の言語使用としての話し言葉やネット上の相互行為を分析し、定型表現を中心的資源と位置付けた言語知識・言語使用モデルを構築した。また、発話末表現、動詞表現や構文など多様な姿の定型表現が特定の社会行為・文脈と結びついて機能したり創発したりしていること、そして定型表現は単に言語だけでなく、音調や身体情報、ひいては読点などの記号も含めたものとして理解すべきであることも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義 研究は、日常の話し言葉の分析から、従来の言語学で幅広く前提とされる「文法規則に基づいた新規文の生 成」という言語モデルに変わるものとして、定型表現がより中心的な役割を果たす言語知識・言語使用モデルを 提示した。定型表現は、単に固定化した周辺的表現ではなく、決まり文句から構文的なものまで幅広い形式レベ ルにわたって見られ、機能的にも相互行為の資源として多様な働きを担う。こうした事実を、日本語を対象とし た研究を通してシンポジウムや学術誌投稿などを通して国際的に発信し、これまで英語中心であった知見を強化 することができた。また、定型表現の実際の使用の研究は、第二言語教育などより広い研究領域にも示唆に富 む。

研究成果の概要(英文): It has been pointed out in recent years, mainly with regard to English, that people do not generate sentences according to grammatical rules each time, but rather communicate using a variety of formulaic expressions. In this study, focusing on Japanese, which has not been well studied compared to English, we analyzed spoken language and online interaction as daily language use, and constructed a model of linguistic knowledge and use that positions formulaic expressions as a central resource. Furthermore, the study revealed that various forms of formulaic expressions, such as utterance-final expressions, verb expressions, or syntactic constructions, function or emerge in connection with specific social actions and contexts, and that formulaic expressions should be understood as not only language but also include information regarding prosody and body and even symbols as punctuation marks.

研究分野: 言語学

キーワード: 相互行為 話し言葉 定型表現 創発 創造性 日本語 文法知識 書き言葉

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

#### 1.研究開始当初の背景

従来の言語学では、無限の文を生成・理解するための文法規則の探求のために、言語学者自らが作った例文(作例)を分析対象として理論を構築してきた。一方で、人間のコミュニケーションの最も根源的形態である**自然な話し言葉、つまり日常の会話**は、言語学における分析の対象としては長らく軽視されてきた。1990年代以降コンピューター技術の発展に伴い、大量のデータを扱うコーパス言語学や自然言語処理といった言語学の関連領域が発展してきたが、そこでもデータとなるのは主に書き言葉であった。また同じ頃から、録音録画機器の発達とともに、話し言葉を基盤として言語構造のシステムを再考する研究が徐々に増えたが、英語に関する研究が圧倒的に多く分野を牽引する状態は続いており、英語をはじめとする印欧語以外の言語の研究は不足している。

また、文法規則に従って私たちが「無限の文を生成・理解する」ことが従来の言語学における理論の基盤となってきたが、日常の言語使用においては、文はそのつど新規に生成されるのではなく、定型表現(決まり文句から構文的なものまで全体・または部分的に固定化した表現)の占める割合が大きいことが 2000 年以降、英語の研究を中心に指摘されはじめた (Wray 2012 等)。しかし定型表現と言えば、主にことわざや慣用表現が取り上げられ、文法規則を主に取り扱う言語学からは例外的要素と見なされ、各言語を話す社会の文化を表すものとして扱われることが多かった。さらに、定型表現研究は第二言語教育の領域では関心が高いが、特に非印欧語において、自然な日常会話のデータを使って、実際の使用に基づいてその働きを明らかにする研究は、ほとんどなされてきていない。

#### 2.研究の目的

上記のような状況を背景に、本研究では、言語体系に見られる定型表現の役割という、従来言語学で顧みられてこなかった問題に、日本語を軸に中国語や英語も含めて複数の言語を視野に入れて、会話データを中心に分析に取り組むこととした。定型表現を社会的相互行為の資源として捉え、実際の使用に基づいてその働きを明らかにすることを研究の目的とした。具体的には、ビデオ撮影した会話データ(音声・ビデオ)を中心に分析し、定型表現が用いられる際の会話参加者の言語行動や非言語行動を含めて包括的に分析することとした。

言語教育においてコミュニケーションへの志向が高まっている現在、日常会話においてどのような定型表現がどのような場面でどのくらい使われているのかを明らかにすることは、日本語・英語・中国語各言語の記述ならびに教育に有益であると考えた。そのために、「オラリティと社会」という研究のキーワードを念頭におき、話し言葉を基盤として言語構造のシステムを再考することを最終的な目標とした。

## 3.研究の方法

分析は、会話における文法研究の新領域として近年注目を集める相互行為言語学の手法 (Thompson et al. 2015)を踏まえ、会話における相互行為を基盤として行った。データには会話をはじめとする、日常の相互行為を反映した素材(ビデオ撮影・録音した日常会話やインターネット上の話し言葉的な表現なども含む)の中で、比較的安定した頻度・パターンで出現する相互行為の連鎖に着目した。

定型表現の分類(表1)を出発点として、本研究では、これらの異なるタイプの定型表現が相互 行為の中でどのように使われるのか、つまり定型表現が用いられる際の会話参加者のふるまい について、言語行動、非言語行動を含めて包括的に分析を行った。

## 表 1. 日本語における定型表現のタイプ (大野・鈴木(2015)を改訂) 定型表現のタイプ 例

- (1)決まり文句 「もしもし」「おかえんなさい」「ごめんなさい」「今いい?」
- (2)談話標識 「なんだろ」「なんていうの」「やっぱ」
- (3)末尾表現 「それ飲んだんだよ」「そんな感じだよね」「むかっとくるというかさあ」
- (4)反応表現 「あるある」「うそいえ」「ほら始まった」「そこまで言う」
- (5)語彙化 「この間」「そういうの」「知らない人」
- (6)コロケーション 「いっぱいある」「けっこうある」「深い悲しみに襲われた出来事」
- (7)構文 「なんの~なの?」「~てもらってたの?」「~てあげて?」「~のは…」
- (8)諺・慣用句 「帯に短し襷に長し」「河童の川流れ」

音声や動画を含めた文脈情報を分析に含めることで、言語を、他のモダリティとは独立したシステムとして扱うのではなく、現実の社会的環境の中で人間が取る行動を構成する要素としてより正確に理解することが可能となった。

言語の定型性に対する接近方法として、(i)話し言葉による相互行為の中での定型表現の分布と機能、(ii)定型表現を基盤とした言語生産メカニズム、(iii)言語表現の定型化を促す要因と環境、(iv)定型表現のタイプ間の相互関係、(v)相互行為を構成する資源としての「定型性」の役割を明らかにし、相互行為における言語構造・使用を記述・分析するためのモデル構築を目指した。

#### 4.研究成果

2017 年度(初年度) は「定型性研究の基礎固め」をテーマとして定型性の分析に向けての情報収集とアウトプットを行った。研究会合は全部で4回開催した。2017年9月のキックオフ会合では各メンバーの研究テーマ(特に定型性に絡めて)研究進行予定を決め、午後から Marja-Liisa Helasvuo氏、野村佑子氏、高梨博子氏を迎えてワークショップを行った。11月のワークショップでは定型表現の理論的枠組に関連して、海外協力者の Hongyin Tao 氏・高梨博子氏・土屋智行氏に発表して頂き、お互いに少しずつ異なる研究領域から言語の定型性とそれを踏まえて成立する言語の創造性への理解を深めた。

1月には定型表現研究の方法論に着目しながら、協力者の大野剛氏と鈴木のケーススタディ、そして言語処理の分野で日本語複単語表現辞書(JMWEL)を 60 年代から構築してきた首藤公昭氏の講演を通して定型表現の認定の問題に関して議論を行った。そして2月末には、「話しことばの言語学ワークショップ」の一環として、進捗発表会を公開で開催し、メンバーが発表を行いフィードバックを得た。多岐にわたるデータ(実験、歴史的コーパスデータ、自然会話の動画、電話会話の録音等)に見られる定型表現の振る舞いについて、聴衆と議論した。これらの会合は実施計画に従って順調に遂行され、多角的に段階的に言語の定型性に理解を深められたといえる。

2018 年度(2 年目) もデータと向き合い個々のメンバーの専門性を生かした研究活動を進めることができた。5月26日に慶應義塾大学(三田)で第1回研究会合を開催し、まず同じ動画データ(大学生の会話)を見ながらメンバーそれぞれの定型性と言語使用に関する気付きを共有し合った後、個々のメンバーが日・中・英語のデータから短いセグメントを持ち寄り議論をし、定型性を分析する上でポイントになるリサーチクエスチョン(研究の切り口)のリストを作成した。そして計画通り9月には、カナダ・アルバータ大学でのReferentiality(言語の指示性)をテーマにした国際会議の開催に関わり、チームから4名が発表を行い海外研究者と交流の機会を得た。一見定型性とは無関係に思われるが、指示表現の構造や会話における現れ方や位置、非言語的な側面を考える上でも、定型性を視野に入れることの有用性が確認でき貴重な機会となった。

12月に海外研究協力者の H. Tao 氏 (UCLA) と大野剛氏 (U of Alberta)を招聘し、東京外国語大学で国際ワークショップ (公開)を開催し、言語の定型性を中心に据えた理論化を見据えた発表を聞くことができた。2019年3月6日から7日にかけて九州大学で行った第3回目の会合では初日には質問や確認などの「働きかけ」に対する「応答」をテーマに先行研究の知見を検討し共通のデータを使って議論した。2日目には、本研究期間の折り返し点となるタイミングで、今までの研究会合での議論を振り返った。最終目標の一つである「文法知識のモデル化」に向けて、その難しさをメンバー間で共有するとともに、国際シンポジウムなどを通して研究成果をまとめてゆく方向性をも確認した。相互行為分析からは少し離れた立場の方たちを招いて言語の定型性に関する議論を深める案などが出された。1年後の3月には定型性研究の先鞭をつけたAlison Wray 氏をイギリスから招く方向を決め交渉したが、本人からお断りがあり計画を修正した。

2019 年度(3年目) は、雑誌論文出版、研究発表、図書の表が示すように国内・海外両方で、順調に実績を重ねられた。また研究会合は3回開催した。まず6月にはメンバー同士が「定型性と私」というテーマで原点に立ち返り、論文集出版に向けて全体像の構築を開始し(Formulaicity from/to language creation)、夏には論文の構想を示すアブストラクトを集めた。10月の会合では、最終年度の目標でもある理論化・論文集に向けて今後の活動の方向性を議論した。12月にはフィンランド Turku 大学の Helasvuo 教授と共に定型性と文法(特に指示性)との関わりを検討した。

2020 年 3 月 13 日開催予定だったシンポジウムは、2 月以降の COVID-19 の感染拡大のため残念 ながら中止した。日常の話しことばに見られる定型性とその広汎さを伝えるべく具体的な研究 例を準備し、その日の発表や議論を元にして論文集に生かす計画を立て、北米と九州大学から招聘講演者を 4 名、そしてプロジェクトチームのメンバー全員が講演とポスター発表を行うとい

う大規模なものを想定していた。「定型表現は周辺的」と言っていた時代、「定型表現は当たり前(非常に多く見られる)」という今の時代を経て、次の時代の定型性研究に示唆を与えるような具体的な研究例を示すべく準備をしていたので、2020年度末にあらためて、シンポジウムの招聘予定者(UCLA Tao 氏、Old Dominion Uの兼安氏、U of Albertaの大野氏)やUCSBの Sandra Thompson 氏)を招いて、集大成のシンポジウムを開催し論文集執筆につなげることを皆で確認した。

2020 年度(4年目) も COVID-19 のため、様々な活動をすべてオンラインで行った。8月22日と29日の2回に分けて、オンラインで定型表現に関する国際研究会合を敢行した UCLA の Tao 教授、アルバータ大学の Ono 教授にも参加して頂き、定型表現と従来考えられてきたものの枠を超えてより広い捉え方(Prefab, 身体動作を含む表現)より新しいジャンル(含話しことば、SNS)などでメンバーが進めているプロジェクトについて発表し意見交換を行った。2020年8月より、定型表現研究に寄与する文献の集積リスト作りに着手した。最新の研究を届け、少し前の研究を掘り起こして紹介することを意図して、将来的に定型性に興味を持つほかの研究者にも利する形でまとめることを考えている。

2021年3月に国際シンポジウム(International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse)をオンラインで催行した。UCLAの Tao 教授、アルバータ大学の Ono 教授、そして Old Dominion Universityの Kaneyasu 教授の講演、そして午後には科研のメンバーが定型性の研究成果を一人 15分ずつ紹介した。オンラインで 100名近くが登録し、当日も常時、参加は 6-70名であった。また、Journal of Japanese Linguistics (De Gruyter)という学術雑誌の特別号の枠に対して 3月にプロポーザルを提出し、受理された。2021年度中に科研メンバーによる論文集(イントロ+7編論文)として原稿を取りまとめ 2022年度刊行を目指すこととした。2020年度の学期中は各自オンラインの学務に追われ活動が滞った。それでも 3月にはオンラインで国際シンポジウムを行い、特集号企画も通り、取りまとめに向けて成果が得られたことは良かった。

2021 年度(5年目) は、2020 年度に引き続き、COVID-19 の深刻な影響を受け、研究会・学会発表・シンポジウムはすべてオンラインで行った。まず5月15日に研究会を行い、今年度を仕上げの年度と位置付け計画を立てた。Journal of Japanese Linguistics (De Gruyter 社)という学術論文の特集号の完成に向けて、個々の論文を仕上げるために全員で意見交換の機会を持った。2022 年度3月にはシンポジウムを行うことも確認した。8月9日・10日には、論文執筆のための中間発表会を行い、お互いのデータと分析について議論した。

2022 年 2 月 19 日に再度研究会を開催し、3 月のシンポジウム発表に向けて予行演習を行い当日の手順を確認した。そして年度末のまとめとして、3 月 9 日に相互行為における定型性に関する国際シンポジウム(International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2022)を、海外の著名な研究者を招いてオンラインで催行した。招待発表 2 本 ( Sandra Thompson 教授, Barbara Fox 教授, Trine Heinemann 氏 共同発表 Hongyin Tao 教授)、そして午後には当科研のメンバーが JJL 論文集に寄稿した研究の一部を紹介する形式をとった。オンラインで100名近くが登録し、当日も午前は100名、午後も参加は6-70名だった。一方で、プロジェクトの集大成と位置付けて準備してきた Journal of Japanese Linguistics 特集号(成果論文集)の原稿は、2022年3月末の時点で編集チームがチェックを行った。

本プロジェクトは日常会話における定型性をテーマに、COVID-19 の影響による研究期間延長を 2 回更新し、6 年間にわたる研究を行ってきた。 **最終年度(2022 年度)**は 6 月と 9 月に研究会合を行い、今後の研究の方向性と活動計画を話し合い、研究成果の発表と、成果論文集の刊行という 2 つの形でのこのプロジェクトの社会還元を行うことを確認した。まず口頭での成果発表に関しては、2023 年 2 月 22 日に、京都大学の定延利之教授を迎えて、International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2023 (シリーズ 3 回目)をオンラインで開催した。今回は「定型性から出発するアプローチが、言語研究のありかたをどう変えるか」という 3 部構成で、終日 60 名前後の参加者とともに、従来の言語研究の前提(出発点)と定型性を中心とした言語の見方との違いや重なりに関して、発表事例に言及しつつ議論を深めた。

そして 2023 年 2 月 24 日には、プロジェクトメンバーで最終研究会合を行った。相互行為分析に Poetics (詩学)という切り口から研究されてきた愛知大学の片岡邦好教授をオンラインでお招きし、講演と実習をして頂いた。実際の日常の相互行為の中に詩的構造や繰り返しが顕著に見られることや定型性と創造性の複雑さに関する学びを得ることができプロジェクトの最終会合にふさわしい議論の機会を持つことができた。また、成果論文集の刊行が叶った。2021 年度に執筆を進め、2022 年度は改稿と校正作業を進め、最終的にはイントロダクションの章と 7 本の論文を取り纏めて、Journal 側に提出を済ませ、2023 年 5 月 5 日にめでたく Journal of Japanese Linguistics (Mouton De Gruyter 社) Volume 39、Issue 1 として刊行することができた。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計86件(うち査読付論文 58件/うち国際共著 18件/うちオープンアクセス 4件)

<b>[ 雑誌論文 ] 計86件(うち査読付論文 58件/うち国際共著 18件/うちオープンアクセス 4件)</b>	
1.著者名 Tao, Hongyin and Ryoko Suzuki	4.巻 7(3)
2.論文標題	5.発行年
The pragmatics of creative language use in East Asian languages: An Introduction	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
3.#単版で在 East Asian Pragmatics	297-305
EdSt ASIdii Fidyiidtics	297 - 303
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
10.1558/eap.24315	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1.著者名	4 . 巻
Suzuki, Ryoko	7(3)
2 . 論文標題	5.発行年
Creativity in compliment responses in Japanese everyday talk	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
East Asian Pragmatics	365-394
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1558/eap.24313	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
400	
1. 著者名	4.巻
Suzuki, Ryoko, Tsuyoshi Ono, and Saori Daiju	39
2.論文標題	5.発行年
Verb repetition as a template for reactive tokens in Japanese everyday talk	2023年
3. 雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Japanese Linguistics	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国际共有   該当する
1 . 著者名	4 . 巻
堀内ふみ野	3
2 . 論文標題	5.発行年
2 · 岬ス保超 子どもの発話における前置詞の響鳴率の異なり	2022年
」 C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	20227
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論	116-129
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	有
ナーゴンマクセフ	国際共革
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
a フンテノ CA CIA GV 1、 大は4 フンナノ CA JI 四無	

1 . 著者名 吉川正人・中村文紀・SPREADBURY Ash・堀内ふみ野・土屋智行	4.巻 <sup>47</sup>
2.論文標題 認知と社会のダイナミズムー創発・伝播・規範から読み解く言語現象の諸相一	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 社会言語科学会第47回大会発表論文集	6.最初と最後の頁 247-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1.著者名 小川芳樹,中山俊秀	4 . 巻 3
2.論文標題 変化・変異・進化の事実に向き合う種々の言語理論 必要なのは対立か,対話か,連携か	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 小川芳樹,中山俊秀編『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論3』	6.最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 中山俊秀	4.巻 148
2. 論文標題 言語の多様性が教えてくれること:言語システムの動的性質と文脈依存的性質	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 日本音響学会第148回研究発表会論文集	6.最初と最後の頁 -
   掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)   なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 Yokomori, Daisuke and Tomoko Endo	4.巻 196
2.論文標題 Projective/retrospective linking of a contrastive idea: Interactional practices of turn-initial and turn-final uses of kedo 'but' in Japanese	5 . 発行年 2022年
3.雑誌名 Journal of Pragmatics	6.最初と最後の頁 24-43
   掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)   10.1016/j.pragma.2022.03.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

1 . 著名名 集神刊上部		
契約人上的       39         2. 滴文程題 「満評・Newlainen.Terttu, Minna Palander-Collin and Tanja Saliy (eds.) Patterns of Change in 18th-Century English: A Sociolinguistic Approach, Amsterdae: John Benjamins (2018)」       6. 最初と最後の頁 71.79         掲載記文のDOJ (デジタルオプジェクト識別子)なし       直読の有無 有         1 . 著名名 実施は上部       4. 巻         2 . 論文理题 「日本語と近隣語話における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ(輪) ひつじ書房)       5. 発行年 2023年         3 . 雑誌を 『日本語と近隣語話における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ(輪) ひつじ書房)       6. 最初と最後の頁 1.26         3 . 雑誌を 『実施技工部       4. 巻         3 . 雑誌を 『実践要決研究と英語史』       5. 無行年 2023年         3 . 雑誌を 『実践理たおける定型表現と定型性。(渡辺拓人・柴崎礼士部(線) 開拓社) Studies in the History of the English Language 10.       6. 最初と最後の頁 1.26         3 . 雑誌を 実践現たおける定型表現と定型性。(渡辺拓人・柴崎礼士部(線) 開拓社) Studies in the History of the English Language 10.       2. 満女権題 現識の表別においたのでの「デジタルオプジェクト識別子) 直接の有無 有         1 . 著名名 実験礼工部 「活用指標機器 but the fact is that の定型化・後期近代表話と現代表話を中心に」       5. 無打在 2023年         3 . 雑誌名 『実践経文ののの(デジタルオプジェクト護別子)ない。 2003年       6. 最初と最後の頁 145-168         3 . 雑誌名 『実践記述とおける定型表現と定型性。(渡辺拓人・柴崎礼士部(線) 開拓社) Studies in the History of the English Language, 10         3 . 雑誌名 『実践記述とおける定型表現と定型性。(渡辺拓人・柴崎礼士部(線) 開拓社) Studies in the History of the English Language, 10         3 . 雑誌名 『江西山田県の東京・「「「大田県田県」」       6. 最初と最後の頁 145-168         4 . 巻 『日本の日本日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本	1.著者名	4 . 巻
2. 論文標題 「電子 - Newslainen, Terttu, Minne Palander-Collin and Tanja Saily (eds.) Patterns of Change in 18th-Century English: A Sociolinguistic Approach, Amsterdam: John Benjanins (2018)」 3. 創版名 「近代表語研究」 「選覧論文の2001 (デジタルオプジェクト機別子) なし 「おっプンアクセス オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 「言語係動きと決核化について 近現代日本語の「より」模文を要例として」 「高級程題」「言語係動きと決核化について 近現代日本語の「より」模文を要例として」 「高級程題」「言語係動きと決核化について 近現代日本語の「より」模文を要例として」 「高級経験の頁」 「書話と近隣書話における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ(輪)ひつじ書房) 「高級の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 「記録を現ります。」 「高級のの01 (デジタルオプジェクト機別子) なし 「高級程題」「定題を現研究と英語史」 「高級程題」「定題を現研究と英語史」 「意味を現研究と英語史」 「高級程題」「定題を現研究と英語史」 「高級担意 現立における定型表現と定型性。(適辺抗人・柴崎礼士郎(線)開拓社)Studies in the History of 1・26 無別と最後の頁 1・26 まの 1・26 ま		38
「書書・Nevalainen、Tertus、 linna Palander-Collin and Tanja Saily (eds.) Patterns of Change in 18th-Century English: A Sociolinguistic Approach、Assterdam: John Benjanins (2018)」	300 TIO T 40	
「書書・Nevalainen、Tertus、 linna Palander-Collin and Tanja Saily (eds.) Patterns of Change in 18th-Century English: A Sociolinguistic Approach、Assterdam: John Benjanins (2018)」	0 *A-LIEUX	5 78/= F
18社内とのサロリ を		
8 ・最初と無検の頁 で近代表話研究』 6 ・最初と無検の頁 で1・7・79	「書評–Nevalainen,Terttu, Minna Palander-Collin and Tanja Saily(eds.)Patterns of Change in	2022年
8 ・最初と無検の頁 で近代表話研究』 6 ・最初と無検の頁 で1・7・79	18th-Century English: A Sociolinguistic Approach. Amsterdam: John Benjamins (2018)	
選議の有無 有 71-79		6 見知し見後の百
接動論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 1 日際共著 2 . 論文標題 5 . 第行年 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 7 . 一プンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 5 . 第行年 2023年 4 . 巻 1 . 著名名 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 3 . 雑誌名 2 . 第2 .	『近代英語研究』	71-79
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 1 日際共著 2 . 論文標題 5 . 第行年 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 7 . 一プンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 5 . 第行年 2023年 4 . 巻 1 . 著名名 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 3 . 雑誌名 2 . 第2 .		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 1 日際共著 2 . 論文標題 5 . 第行年 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 7 . 一プンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 5 . 第行年 2023年 4 . 巻 1 . 著名名 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 3 . 雑誌名 2 . 第2 .		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 1 日際共著 2 . 論文標題 5 . 第行年 2023年 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 7 . 一プンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難 5 . 第行年 2023年 4 . 巻 1 . 著名名 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級論文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 2 . 第次標題 7 . 第級語文の2001(デジタルオプジェクト識別子) 3 . 雑誌名 2 . 第2 .	担事やみのの( / ごうり   ナイン   カー ***ロフ \	木芸の左仰
1 著名名		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回難	オープンアクセス	国際共業
1. 著者名 ・	• • • • • •	日か八日
実崎礼士郎       1         2. 論文標題 『日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)       6. 最初と最後の頁 『表記の有無 有         オープンアクセス       国際共著         1. 著名名 『英語史における定型表現と定型性』(選辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6. 最初と最後の頁 1-28         掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス       国際共著         1. 著名名 紫崎礼士郎       4. 巻 10         2. 論文課題 『訪れ課題 『訪用論標題 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         掲載論文の2001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	オープジアグセスではない、又はオープジアグセスが困難	-
実崎礼士郎       1         2. 論文標題 『日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)       6. 最初と最後の頁 『表記の有無 有         オープンアクセス       国際共著         1. 著名名 『英語史における定型表現と定型性』(選辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6. 最初と最後の頁 1-28         掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス       国際共著         1. 著名名 紫崎礼士郎       4. 巻 10         2. 論文課題 『訪れ課題 『訪用論標題 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         掲載論文の2001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		
実崎礼士郎       1         2. 論文標題 『日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)       6. 最初と最後の頁 『表記の有無 有         オープンアクセス       国際共著         1. 著名名 『英語史における定型表現と定型性』(選辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6. 最初と最後の頁 1-28         掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス       国際共著         1. 著名名 紫崎礼士郎       4. 巻 10         2. 論文課題 『訪れ課題 『訪用論標題 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         掲載論文の2001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	1 芙老名	Δ
2 . 論文標題 「言語接触と文法化について 近現代日本語の「より」構文を事例として」       5 . 飛行年 2023年         3 . 雑誌名 『日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)       6 . 最初と最後の頁 「日本語と近隣言語における文法化』(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)         超数論文の001(デジタルオブジェクト識別子)なし       面際共著         1 . 著者名 架崎礼土郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼土郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6 . 最初と最後の頁 1-26         財動論文の001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス オープンアクセス       4 . 巻 10         1 . 著者名 架崎礼土郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「話用論標識 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼土郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		_
「言語接触と文法化について 近現代日本語の「より」構文を事例として」     3 . 雑誌名     『日本語と近隣言語における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)     5 . 最初の有無 有	架呵礼工即	1
「言語接触と文法化について 近現代日本語の「より」構文を事例として」     3 . 雑誌名     『日本語と近隣言語における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)     5 . 最初の有無 有		
「言語接触と文法化について 近現代日本語の「より」構文を事例として」     3 . 雑誌名     『日本語と近隣言語における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書房)     5 . 最初の有無 有	2 . 論文標題	5 . 発行年
***********************************	**************************************	
# 日本語と近隣言語における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ (編) ひつじ書房)  - 指数論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎 2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」 3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編) 開拓社)Studies in the History of the English Language 10.    書教論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎 2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編) 開拓社)Studies in the History of the English Language, 10    表表記	口回19版に大仏心にファイ 型城下日本品の より」開入で事例として」	۲023 <del>+</del>
# 日本語と近隣言語における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ (編) ひつじ書房)  - 指数論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎 2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」 3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編) 開拓社)Studies in the History of the English Language 10.    書教論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎 2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編) 開拓社)Studies in the History of the English Language, 10    表表記		
# 日本語と近隣言語における文法化。(青木博史・ナロック ハイコ (編) ひつじ書房)  - 指数論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎 2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」 3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編) 開拓社)Studies in the History of the English Language 10.    書教論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎 2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化・後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編) 開拓社)Studies in the History of the English Language, 10    表表記	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	『日本語と近隣言語における文法化。(青木埔史・ナロック ハイコ(編)ひつじ書戻)	
### おープンアクセス   国際共著   1 著者名   ### ### ### ### ### ### ### ### ###	ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロー・ロ	
### おープンアクセス   国際共著   1 著者名   ### ### ### ### ### ### ### ### ###		
### おープンアクセス   国際共著   1 著者名   ### ### ### ### ### ### ### ### ###		
### おープンアクセス   国際共著   1 著者名   ### ### ### ### ### ### ### ### ###	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	<b>査読の有無</b>
オープンアクセス		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1. 著者名 柴崎礼士郎       4. 巻 10         2. 論文標題 「定型表現研究と英語史」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6. 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし       重誘の有無 有         1. 著者名 柴崎礼士郎       4. 巻 10         2. 論文標題 「語用論標題 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	<b>4</b> 0	Ħ
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1. 著者名 柴崎礼士郎       4. 巻 10         2. 論文標題 「定型表現研究と英語史」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6. 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし       重誘の有無 有         1. 著者名 柴崎礼士郎       4. 巻 10         2. 論文標題 「語用論標題 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6. 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		
1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 『定型表現研究と英語史』       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6 . 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       重際共著         オープンアクセス 大ープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 10         1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「語用論標題 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 なし         オープンアクセス       国際共著	オーブンアクセス	国際共著
1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 『定型表現研究と英語史』       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       6 . 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       重際共著         オープンアクセス 大ープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 10         1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「語用論標題 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 なし         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセスではない. 又はオープンアクセスが闲難	-
柴崎礼士郎       10         2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language 10.       6 . 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	S S S S C S C C C C C C C C C C C C C C	
柴崎礼士郎       10         2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language 10.       6 . 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		. "
2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 英語史における定型表現と定型性 a (渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language 10.       6 . 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 有         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性 a (渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 なし         オープンアクセス       国際共著	1.者者名	4 . 惷
2 . 論文標題 「定型表現研究と英語史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 英語史における定型表現と定型性 a (渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language 10.       6 . 最初と最後の頁 1-26         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 有         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 「英語史における定型表現と定型性 a (渡辺拓人・柴崎礼士郎 (編) 開拓社) Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 なし         オープンアクセス       国際共著	柴﨑礼士郎	10
「定型表現研究と英語史」	714-516-24	
「定型表現研究と英語史」	2	F 38/- F
3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10. 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       査読の有無 有         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       国際共著	「定型表現研究と英語史」	2023年
『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       査読の有無 有         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       国際共著		
『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language 10.       査読の有無 有         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       国際共著	2 사람보	6 是初レ是後の百
### ### ### ### ### ### ### ### ### #		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -		1-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -	the English Language 10.	
なし     有       オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     国際共著       1 . 著者名 柴崎礼士郎     4 . 巻 10       2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」     5 . 発行年 2023年       3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10     6 . 最初と最後の頁 145-168       掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 有       オープンアクセス     国際共著		
なし     有       オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     国際共著       1 . 著者名 柴崎礼士郎     4 . 巻 10       2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」     5 . 発行年 2023年       3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10     6 . 最初と最後の頁 145-168       掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 有       オープンアクセス     国際共著	「担郵給立のDOI(デジカルオブジェクト辨別之)	本芸の右無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著         1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著		
1 . 著者名 柴崎礼士郎       4 . 巻 10         2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6 . 最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセス	国際共著
柴崎礼士郎102.論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」5.発行年 2023年3.雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 106.最初と最後の頁 145-168掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著		国際共著
柴崎礼士郎102.論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」5.発行年 2023年3.雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 106.最初と最後の頁 145-168掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著		国際共著
柴崎礼士郎102.論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」5.発行年 2023年3.雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 106.最初と最後の頁 145-168掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著		国際共著
2.論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」       5.発行年 2023年         3.雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10       6.最初と最後の頁 145-168         掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」2023年3.雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 106.最初と最後の頁 145-168掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	- 4 . 巻
「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」2023年3.雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 106.最初と最後の頁 145-168掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	- 4 . 巻
「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」2023年3.雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 106.最初と最後の頁 145-168掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 柴﨑礼士郎	- 4.巻 10
3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス  国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 柴﨑礼士郎	- 4.巻 10
『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名	- 4.巻 10 5.発行年
『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名	- 4.巻 10 5.発行年
『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」	- 4.巻 10 5.発行年 2023年
the English Language, 10       査読の有無         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)       査読の有無         なし       有         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」	- 4.巻 10 5.発行年 2023年
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-168
オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-168
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-168
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-168
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-168  査読の有無 有
つ ノフナノにかくはなりに 人はひ ノフナノに入び四無 -	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-168  査読の有無 有
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「語用論標識 but the fact is that の定型化 - 後期近代英語と現代英語を中心に」  3 . 雑誌名 『英語史における定型表現と定型性』(渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)開拓社)Studies in the History of the English Language, 10  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	- 4 . 巻 10 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-168  査読の有無 有

1. 著者名	4 . 巻
Shibasaki, Reijiro	39
2 . 論文標題	5 . 発行年
"Formulaicity and formulaic expressions in Japanese: An introduction"	2023年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Japanese Linguistics (De Gruyter Mouton)	1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名	4. 巻
Shibasaki, Reijiro	1, 1, 2
2.論文標題 "From comparative standard marker to comparative adverb: On the contact-induced (de)grammaticof yori in modern through present-day Japanese",	5 . 発行年 2023年
3.雑誌名 Different slants on grammaticalizationalization	6.最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名	4.巻
Shibasaki, Reijiro	-
2 . 論文標題	5 . 発行年
"A little more thought to the decline of iwis: Analogy, reanalysis and obsoletism"	2023年
3.雑誌名 Linguistic and Stylistic Approaches to Speech, Thought and Writing in English (eds. by Osamu Imahayashi, Michiko Ogura and Yoshiyuki Nakao, Peter Lang)	6.最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名	4.巻
Takanashi, Hiroko	7
2 . 論文標題	5 . 発行年
Language Reproduction and Coordinated Agency through Resonant Play	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
East Asian Pragmatics	395-423
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1558/eap.23676	有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

1.著者名	4 44
	4 . 巻
中野宏幸・高梨博子	-
2.論文標題	5 . 発行年
クロノトポスの概念の活用による都市形成と対話的交流の分析	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
第37回日本観光研究学会全国大会学術論文集	271-275
为50日1个低九则九于云王国八云于时间入来	211-213
4月季公本の2017でかりませず、 ちょかロフン	本性の大価
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
STATE OF THE STATE	L
1 英老々	4 . 巻
1. 著者名	_
Ono, Tsuyoshi and Ryoko Suzuki	284
2.論文標題	5 . 発行年
Establishing a pseudo-cleft construction in Japanese: A perspective from everyday conversation	2023年
25122115111111 a possible of other section in Superiode. A peropositive from everyday conversation	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Lingua	1-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1016/j.lingua.2022.103437	有
10.1016/j.111igua.2522.10010/	[
オープンアクセス	国際共著
· · · · · · =· ·	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 艾字ク	│ 4.巻
1.著者名	7.6
	- E
1.者省名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki	-
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki	_
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2.論文標題	5.発行年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki	_
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages	5.発行年 2021年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2.論文標題	5.発行年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名	5.発行年 2021年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units	- 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-10
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units	- 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 1-10
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2. 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3. 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2. 論文標題	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 - 5 . 発行年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 - 5 . 発行年 2021年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 - 5 . 発行年 2021年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2.論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3.雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 - 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 123-160
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114	
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/bct.114  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Tsuyoshi Ono and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units	- 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 - 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 123-160

1.著者名	4 . 巻
Shibasaki, Reijiro	219
2 . 論文標題	5 . 発行年
"Reanalysis and the emergence of adverbial connectors in the history of Japanese"	2021年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Studies at the Grammar-Discourse Interface: Discourse markers and discourse-related grammatical	102-124
phenomena (eds. by Alexander Haselow and Sylvie Hancil, )	102 121
protomona (oder s) motandor nacerem and s) mre namern, y	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1075/slcs.219.04shi	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
4	. 24
1 . 著者名	4 . 巻
柴﨑礼士郎	-
2 . 論文標題	C
	5 . 発行年
「第4章:構文拡張と主観化の解釈について 英語史における the/my/ question is の考察に基づい て」	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
っ.##### 『構文と主観性』(天野みどり・早瀬尚子(編),くろしお出版)	0.取例と取扱の具 75-95
1時又と上既任』(入野のとり、十次回」(編)、、くりしの山水)	73-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4.巻
Rhee, Seongha, REIJIROU SHIBASAKI, XINREN CHEN	Vol. 6 No. 3
AAA 1977	
2.論文標題	5 . 発行年
"Grammaticalisation of Discourse Markers in East Asian Languages: Introduction"	2021年
2 NASH 67	C 目初し目後の五
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
East Asian Pragmatics Vol. 6 No. 3 (2021): Special Issue: Grammaticalisation of Discourse	271 - 281
Markers in East Asian Languages (Equinox)	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
10.1558/eap.21135	有
10.1000/cap.21100	ь
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
Shibasaki, Reijiro	Vol. 6 No. 3
2 . 論文標題	5 . 発行年
"Discourse markers in the making: Pragmatic differentiation of jijitsujoo from jijitsu in	2021年
Modern through Present Day Japanese"	6 PARI P.//: - T
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
East Asian Pragmatics Special Issue: Grammaticalisation of Discourse Markers in East Asian	303-329
Languages	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
均乗Xim 又のDOT ( デンタルオフシェクトink が) 丁 ) 10.1558/eap.20921	直 前の 行無 有
10.1000/ 6ap.20021	Ħ
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	-

1.著者名	4 . 巻
横森大輔	21
2 . 論文標題	5 . 発行年
会話は構文文法にどんな示唆を与えるか	2021年
云記は南スス仏にこれないででうんるが	20214
2 145+47	6 見知に見後の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本認知言語学会論文集	427-432
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
中野宏幸・高梨博子	
中封公王:向木停丁	
그 스스 技術目音	F 発仁左
2.論文標題	5.発行年
外国人旅行者へのガイドツアーや応接におけるユーモアのある対話の分析 ホストとゲストの遊び心に着	2021年
目して	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
第36回日本観光研究学会全国大会学術論文集	121-125
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
<b>本</b> し	無
	<del>~~~</del>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1. 著者名	4.巻
高梨博子	第24号
i-asiaid a	
2 . 論文標題	5.発行年
	5.発行年 2022年
2 . 論文標題	
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から	2022年
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3.雑誌名	2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から	2022年
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3.雑誌名	2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』	2022年 6 . 最初と最後の頁 98-108
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2022年 6.最初と最後の頁 98-108 査読の有無
2 . 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3 . 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』	2022年 6 . 最初と最後の頁 98-108
2 . 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3 . 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	2022年 6.最初と最後の頁 98-108 査読の有無 無
2 . 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3 . 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	2022年 6.最初と最後の頁 98-108 査読の有無
2 . 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3 . 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	2022年 6.最初と最後の頁 98-108 査読の有無 無
2 . 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3 . 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	2022年 6.最初と最後の頁 98-108 査読の有無 無
2 . 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3 . 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	2022年 6.最初と最後の頁 98-108 査読の有無 無 国際共著
2. 論文標題     20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から     3. 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名	2022年 6.最初と最後の頁 98-108 査読の有無 無
2. 論文標題         20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から         3. 雑誌名         日本女子大学『総合研究所紀要』         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス         オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 -
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から         3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)         1.著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol. 14
2. 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から         3. 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし         オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)         1. 著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi         2. 論文標題	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol.14
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセスオープンアクセスとしている(また、その予定である)1.著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2.論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol. 14
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1.著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2.論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol.14  5.発行年 2022年
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1.著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2.論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara3.雑誌名	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol.14
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1.著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2.論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol.14  5.発行年 2022年
2. 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3. 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1. 著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2. 論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara3. 雑誌名	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol.14  5.発行年 2022年
2. 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から         3. 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし         オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)         1. 著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi         2. 論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara         3. 雑誌名 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol. 14  5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1.著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2.論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara3.雑誌名	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol.14  5.発行年 2022年
2. 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から         3. 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし         オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)         1. 著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi         2. 論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara         3. 雑誌名 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol. 14  5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
2. 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3. 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1. 著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2. 論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara3. 雑誌名 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol. 14  5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 査読の有無
2 . 論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から 3 . 雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi  2 . 論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol. 14  5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 -  査読の有無 有
2.論文標題 20世紀初頭の田中孝子の足跡 シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から3.雑誌名 日本女子大学『総合研究所紀要』掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)1.著者名 Nakano, Hiroyuki, and Hiroko Takanashi2.論文標題 Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara3.雑誌名 Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	2022年 6.最初と最後の頁 98-108  査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 Vol. 14  5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 査読の有無

1.著者名	•
	4 . 巻
大谷直輝、中山俊秀	-
2.論文標題	5.発行年
·····	
用法基盤モデルの言語観	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
中山俊秀,大谷直輝(編)『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点』ひつじ書房	3-25
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
大谷直輝、中山俊秀	-
2 . 論文標題	5.発行年
認知言語学と談話機能言語学	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
中山俊秀, 大谷直輝(編)『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点』ひつじ書房	27-48
. The state of the	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
1911年1日 1911年 (プラグルオンジェンド戦別士)	重読の有無   無
	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
—	4. 巻   172
Nakayama, Toshihide and Horiuchi Fumino	112
2 . 論文標題	5 . 発行年
Demystifying the development of a structurally marginal pattern: A case study of the wa-	2021年
initiated responsive construction in Japanese conversation	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
<b>ン ・ 小年中心 口</b>	
Journal of Pragmatics	215-224
	215-224
Journal of Pragmatics	215-224 
Journal of Pragmatics	
Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.11.018	査読の有無有
Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.11.018 オープンアクセス	査読の有無
Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.11.018	査読の有無有
Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無有
Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.11.018 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	査読の有無 有 国際共著
Journal of Pragmatics   掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻
Journal of Pragmatics   掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 第2巻
Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2020.11.018 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 堀内ふみ野・中山俊秀	査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻
Journal of Pragmatics   掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	直読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻 5 . 発行年 2020年
Journal of Pragmatics   掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	直読の有無 有 国際共著 - 4.巻 第2巻 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
Journal of Pragmatics   掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	直読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻 5 . 発行年 2020年
Journal of Pragmatics	査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 176-197
Journal of Pragmatics   掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 176-197
Journal of Pragmatics	査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 176-197
Journal of Pragmatics	査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 第2巻 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 176-197

1 . 著名名	***	T
2 . 論文標題		4.巻
競技した発話間に見られる文法的構造の萌芽 子どもによる前置詞Inの使用を例にして       2020年         3 . 創証名 「認知言語学と談話機能言語学の有機的抄点」用法基盤モデルに基づく新展開」。       6 . 最初と最後の育 291-320         相難論文の001(デジタルオプジェクト提例子)なし       国際共著 ・         1 . 著書名 個内込み野       4 . 巻 2         2 . 論文榜题 報子会話で生起する前量詞向単独発話       5 . 発行年 2021年         3 . 機能名 "語用論研究』       6 . 量初と最後の育 74-83         1 . 著書名 高炊得子       1 . 著書名 高炊得子         2 . 語文榜題 "動的語用論の構築へ向けて。       4 . 巻 家と 家も 別的語用論の構築へ向けて。         1 . 著書名 「動的語用論の構築へ向けて。       6 . 是初と最後の育 148-175         2 . 語文程題 「動的語用論の構築へ向けて。       6 . 是初と最後の育 148-175         日本子 「おなのおれ」、ドiroko       2 . 声文程配 「おなのおれ」、ドiroko         2 . 語文程配 「Ratinashin, Hiroko       4 . 巻 2. 第2 . 第	堀内小か野	-
競技した発話間に見られる文法的構造の萌芽 子どもによる前置詞Inの使用を例にして       2020年         3 . 創証名 「認知言語学と談話機能言語学の有機的抄点」用法基盤モデルに基づく新展開」。       6 . 最初と最後の育 291-320         相難論文の001(デジタルオプジェクト提例子)なし       国際共著 ・         1 . 著書名 個内込み野       4 . 巻 2         2 . 論文榜题 報子会話で生起する前量詞向単独発話       5 . 発行年 2021年         3 . 機能名 "語用論研究』       6 . 量初と最後の育 74-83         1 . 著書名 高炊得子       1 . 著書名 高炊得子         2 . 語文榜題 "動的語用論の構築へ向けて。       4 . 巻 家と 家も 別的語用論の構築へ向けて。         1 . 著書名 「動的語用論の構築へ向けて。       6 . 是初と最後の育 148-175         2 . 語文程題 「動的語用論の構築へ向けて。       6 . 是初と最後の育 148-175         日本子 「おなのおれ」、ドiroko       2 . 声文程配 「おなのおれ」、ドiroko         2 . 語文程配 「Ratinashin, Hiroko       4 . 巻 2. 第2 . 第	a Marie	= 7V./= h=
3 - 部誌名		1 - 1 - 1
#認知言語学と該結婚能言語学の有機的接点 用法基盤セデルに基づく新展開 a 291-320	隣接した発話間に見られる文法的構造の萌芽 子どもによる前置詞inの使用を例にして	2020年
#認知言語学と該結婚能言語学の有機的接点 用法基盤セデルに基づく新展開 a 291-320	. IN 6	6 BARLEW 6 T
据載論文の0001 (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 著名名 国際共著 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	** ** * *	
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	『認知言語字と談話機能言語字の有機的接点 用法基盤モデルに基つく新展開 』	291-320
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	相動やウの001/ごごカリナブごことに禁助フン	本柱の左無
1 著名名   日際共著   日際共著   日際共著   日際共著   日際共著   日際共著   日   日   日   日   日   日   日   日   日	·	
1. 著名名 現内のみ野   2. 銀行年   2021年   2	なし	月
1. 著名名 現内のみ野   2. 銀行年   2021年   2	ナーゴンフクセフ	国際共革
1 ・著者名		国际六有
埋肉ぶみ野   2   2   3 次標題   5   発行年   2021年   2021年   3   2021年   2020年   2020	カープラブと人ではない、人はカープラブアとスが四条	_
埋肉ぶみ野   2   2   3 次標題   5   発行年   2021年   2021年   3   2021年   2020年   2020	1 英字夕	<b>1</b>
2. 論文標題 親子会話で生起する前置調句単独発話  2. 論文にとして 2021年  3. 雑誌名 『語用論研究』  超議論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし  1. 著者名 高梨博子  2. 論文標題 第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのブレイからー」  3. 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』  3. 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』  およびアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  5. 発行年 2020年  4. 巻 第2章 第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのブレイからー」  3. 雑誌名 『動い語用論の構築へ向けて』  およびアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1. 著者名 Takanashi、Hiroko  2. 論文標題 カーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1. 著者名 Tokanashi、Hiroko  2. 論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism"  3. 雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  4. 巻 239-264  掲載論文のDODI(デジタルオブジェクト識別子) なし  4. 巻 239-264		
## 子会話で生起する前置詞句単独発話  3 . 雑誌名 『語用論研究。  4 . 最初と最後の頁 74-93  「翻論なの001(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有	畑内小の野	22
## 子会話で生起する前置詞句単独発話  3 . 雑誌名 『語用論研究。  4 . 最初と最後の頁 74-93  「翻論なの001(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有	2 給文煙頭	5
3 . 雑誌名 『語用論研究』	·····	
#翻論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	が、」 女中 ヘエピッ る 別 目 別 り 干 体 允 伯	ZUZ I <del>*  </del>
#翻論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	3. 雑誌名	6 最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1. 著者名 高架博子 2. 論文標題 第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのブレイからー」 3. 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』 「表謝論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オーブンアクセス オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1. 著者名 Takanashi, Hiroko - 2. 論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" - 2. 論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" - 3. 雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse - 2. 講教論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし - 表記の有無 なし - オーブンアクセス - 国際共著 - 国際共著	** ** * *	
### おープンアクセス   国際共著   日際共著   1 ・ 著者名   名・ 一	ад/танжүү/ ブレ ð	74-93
### おープンアクセス   国際共著   日際共著   1 ・ 著者名   名・ 一		
### おープンアクセス   国際共著   日際共著   1 ・ 著者名   名・ 一	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト譜則子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 高梨博子 - 1 著者名 第2巻		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		'F
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名   第2巻   第2号   第2〇0年   第3 題 「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのブレイからー」   第2〇0年   第3 題誌名   第3 動的語用論の構築へ向けて	· · · · · · - · ·	
高梨博子  2.論文標題 第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのプレイからー」  3.雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』  6.最初と最後の頁 148-175  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1.著者名 Takanashi, Hiroko  2.論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism"  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  4.最初と最後の頁 239-264  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  4.オープンアクセス  「最初に最後の頁 239-264  「表読の有無 なし  「表読の表読を表読を表読を表述。」  「表読の表読を表述。」  「表読の表述を表述。」  「表読の表述を表述。」  「表読の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	TO SECULIAR CONTRACTOR SECULIAR CONTRACTOR C	
高梨博子  2.論文標題 第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのプレイからー」  3.雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』  6.最初と最後の頁 148-175  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1.著者名 Takanashi, Hiroko  2.論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism"  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  4.最初と最後の頁 239-264  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  4.オープンアクセス  「最初に最後の頁 239-264  「表読の有無 なし  「表読の表読を表読を表読を表述と表述を表述と表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	1. 著名名	4
2 . 論文標題 第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのブレイからー」 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』 6 . 最初と最後の頁 148-175 番読の有無 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 単版表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表		_
第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのプレイからー」 2020年  3.雑誌名 「動的語用論の構築へ向けて』 6.最初と最後の頁 148-175  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 在読の有無 7  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 7  1.著者名 Takanashi、Hiroko 4.巻 5.発行年 2020年  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 7  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 在読の有無 7 なし 5.最初と最後の頁 239-264	eavita 1	J.5-0
第8章「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性 からかいのプレイからー」 2020年  3.雑誌名 「動的語用論の構築へ向けて』 6.最初と最後の頁 148-175  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 在読の有無 7  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 7  1.著者名 Takanashi、Hiroko 4.巻 5.発行年 2020年  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 7  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 在読の有無 7 なし 5.最初と最後の頁 239-264	2.論文標題	5.発行年
3.雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』  「掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1.著者名 Takanashi、Hiroko  2.論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism"  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  「表読の有無 なし  オーブンアクセス  国際共著  4.巻 ・ 2020年  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  「素読の有無 有 オーブンアクセス  国際共著	·····	
『動的語用論の構築へ向けて』 148-175	20-7 ) 1727 171 2 7 CM 27 CM 2 CM 2 CM 2 CM 2 CM 2 CM 2	
『動的語用論の構築へ向けて』 148-175	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 Takanashi, Hiroko 4.巻 5.発行年 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" 5.発行年 2020年 3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 名 239-264 有 オープンアクセス 国際共著	2012 JHEI (JHE) 7 11377 C E	1.0
有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 Takanashi, Hiroko 4.巻 5.発行年 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" 5.発行年 2020年 3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 名 239-264 有 オープンアクセス 国際共著		
オープンアクセス 国際共著  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism"  3 . 雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  4 . 巻 - 2020年  6 . 最初と最後の頁 239-264  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  有  オープンアクセス	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
### A - プンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4.巻  1.著者名 Takanashi, Hiroko 5.発行年 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" 5.発行年 2020年  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 239-264  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有  オープンアクセス 国際共著	なし	有
### A - プンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4.巻  1.著者名 Takanashi, Hiroko 5.発行年 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" 5.発行年 2020年  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 239-264  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有  オープンアクセス 国際共著		
1 . 著者名 Takanashi, Hiroko 2 . 論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし カープンアクセス 国際共著	オープンアクセス	国際共著
Takanashi, Hiroko	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
Takanashi, Hiroko		
Takanashi, Hiroko	1 . 著者名	4 . 巻
2 . 論文標題 Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism"  3 . 雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  有 オープンアクセス  国際共著		-
Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" 2020年  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 239-264  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著		
Chapter 11 "Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism" 2020年  3.雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 239-264  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2.論文標題	5 . 発行年
3 . 雑誌名 Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  国際共著		
Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 239-264 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有		
Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse 239-264 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse	
なし     有       オープンアクセス     国際共著		
なし     有       オープンアクセス     国際共著		
なし     有       オープンアクセス     国際共著	掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス 国際共著		
	オープンアクセス	国際共著
		_

1 节44	4.巻
1. 著者名	4 . 仓
Ono, Tsuyoshi and Ryoko Suzuki	-
3 the table	F 784-7F
2. 論文標題	5 . 発行年
Exploration into a new understanding of 'zero anaphora' in Japanese everyday talk	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Fixed Expressions: Building Language Structure and Social Action	41-70
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
会木亮子	
84VOT ]	
2 . 論文標題	5.発行年
	2020年
新表現の創発 新しくない中にめっちゃ新しさ見えてるアピール	2020 <del>年</del>
2 htt:	6 早初し早後の五
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点 用法基盤モデルに基づく新展開 』	183-208
In ships to the state of the st	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1. 著者名	4 . 巻
Endo, Tomoko	172
2.論文標題	5.発行年
The benefactive -te ageru construction in Japanese family interaction and adult interaction	2021年
The benefit to ago a construction in capacitor tamely interaction and addit interaction	2021
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Pragmatics	239-253
Journal of Fragmatries	200-200
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
10.1016/j.pragma.2020.11.011_	省 : (/) 有 : : : :
10.1016/j.pragma.2020.11.011_	査読の有無
	貧読の有無   有
<b>オーコンソクセフ</b>	有
オープンアクセス	
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori	有 国際共著 - 4.巻 -
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori	有 国際共著 - 4.巻 -
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation	有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese	有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation 3 . 雑誌名	有 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2020年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation  3 . 雑誌名 Ono, Tsuyoshi & Ritva Laury (eds.), Fixed expression in interaction: Building language	有 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation 3 . 雑誌名	有 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation  3 . 雑誌名 Ono, Tsuyoshi & Ritva Laury (eds.), Fixed expression in interaction: Building language structure and social action. Berlin: Mouton de Gruyter	有 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 203-236
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation  3 . 雑誌名 Ono, Tsuyoshi & Ritva Laury (eds.), Fixed expression in interaction: Building language structure and social action. Berlin: Mouton de Gruyter  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	有 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 203-236 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation  3 . 雑誌名 Ono, Tsuyoshi & Ritva Laury (eds.), Fixed expression in interaction: Building language structure and social action. Berlin: Mouton de Gruyter	有 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 203-236
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation  3 . 雑誌名 Ono, Tsuyoshi & Ritva Laury (eds.), Fixed expression in interaction: Building language structure and social action. Berlin: Mouton de Gruyter  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/pbns.315.08end	有 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 203-236 査読の有無 有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Endo, Tomoko, and Daisuke Yokomori  2 . 論文標題 Self-addressed questions as fixed expressions for epistemic stance marking in Japanese conversation  3 . 雑誌名 Ono, Tsuyoshi & Ritva Laury (eds.), Fixed expression in interaction: Building language structure and social action. Berlin: Mouton de Gruyter  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	有 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 203-236 査読の有無

1 . 著者名	4 . 巻
Shibasaki, Reijirou	26
2 . 論文標題	5 . 発行年
From a clause combining conjunction to a sentence initial adverbial connector in the history of	2020年
Japanese: With special attention to totan(ni) at that moment	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Japanese/Korean Linguistics 26 (eds. by Shoichi Iwasaki, Susan Straussand and Shin Fukuda,	347-358
Stanford: CSLI Publications)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
なし	無
	<del>////</del>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
柴﨑礼士郎	-
★삐↑️│ 上때	-
2 . 論文標題	5 . 発行年
「(It/there is) no nay の歴史的推移と文法化の漸次性について」	2020年
3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
** *** * *	
『中世英語英文学研究の多様性とその展望 吉野利弘先生 山内一芳先生 喜寿記念論文集』(菊池清明・	459-472
岡本広毅 編)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	_
1 . 著者名	4 . 巻
柴崎礼士郎	-
木町で上い	
2 . 論文標題	5 . 発行年
「Wh分裂文と進行形の歴史的発達と融合について 情報連鎖の再構築と対人関係機能」	2020年
2. hktt-47	 6.最初と最後の頁
3.雑誌名	
『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点 用法基盤モデルに基づく新展開』	239-266
担発なさのアベル(デンジャル・ナーデンジー・カートがロリフン)	本注の左便
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
Laury, Ritva, and Tsuyoshi Ono	-
2 . 論文標題	5.発行年
Introduction	2020年
HILLOUGGLIOH	2020 <del>-1</del>
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Fixed Expressions: Building language structure and social action	1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	木井の左無
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	査読の有無
10.1075/pbns.315.01lau	有
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	responsible to the
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1.著者名	4 . 巻
Ono, Tsuyoshi, and Sandra Thompson	-
2 . 論文標題	5.発行年
What can Japanese conversation tell us about 'NP'?	2020年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
	316-327
The 'Noun Phrase' across Languages: An emergent unit in interaction	310-321
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
10.1075/tsI.128.12ono	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
4 ***	1 344
1 . 著者名	4 . 巻
Thompson, Sandra A. and Tsuyoshi Ono	-
2.論文標題	5.発行年
Introduction	2020年
	·
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
The 'Noun Phrase' across Languages: An emergent unit in interaction	2-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
10.1075/tsl.128.01tho	有
10.10/3/151.120.011110	F
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
	1 a 34
1. 著者名	4. 巻
Laury, Ritva and Tsuyoshi Ono	3
2.論文標題	5.発行年
Clause combining in interactional linguistics: A cross-linguistic perspective	2020年
The second secon	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Interactional Linguistics and Chinese Language Studies	66-113
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	無無
<b>4.</b> ∪	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
4 ****	1 4 44
1 . 著者名	4 . 巻
Endo, Tomoko	-
2 . 論文標題	5.発行年
Embodying stance: wo juede 'I think' and gaze	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Li, Xiaoting and Tsuyoshi Ono (eds.), Multimodality in Mandarin conversation	148-178
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
± +\.75±7	FIW + *
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
	_

	. "
1 . 著者名	4 . 巻
遠藤智子・髙田明	_
<u>0. ±∆</u>	5 38/= <del>/_</del>
2. 論文標題	5.発行年
家庭内の共同活動における子どもの指さしと養育者の反応	2019年
0 1424-67	C 目初し目後の下
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
安井永子・杉浦秀行・高梨克也(編)『指さしと相互行為』	161-189
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	四际六有
オーノンアプピス(はない、 又はオープンアプピスが、四種	-
1 . 著者名	4 . 巻
Shibasaki, Reijirou	-
2 . 論文標題	5 . 発行年
·····	2019年
"From Parataxis to Amalgamation: The emergence of the sentence-final is all construction in the history of American English"	2019 <del>11</del>
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
	り、取例と取復の貝 171-191
Kristin Bech and Ruth Mohlig-Falke (eds.), Grammar – Discourse – Context: Grammar and usage in language variation and change (De Gruyter Mouton)	171-191
ranguage variation and change (be Gruyter Mouton)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1515/9783110682564	
10.1313/3/63110062304	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	四际六有
オーノンアプピス(はない、 大はオープンアプピスが、四種	-
1.著者名	4 . 巻
- 集時礼士郎	_
ᄎᄤᆟᆫᆚᅈᆘ	-
2 . 論文標題	5 . 発行年
- 1 mm ス 15 mkg	2019年
アグリカ共品にのける年代な記の支達について、イギリカ共品と比較して、	2019-
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
・	113-131
1911月131(2mm) コーハスル・3日田文化・支头C日田荘間2』(P1011年)	113-131
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	無 無
オープンアクセス	
なし	無 無
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	無 無
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎	無 国際共著 - 4 . 巻
オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 柴崎礼士郎         2 . 論文標題	無 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎	無 国際共著 - 4 . 巻
オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 柴崎礼士郎         2 . 論文標題 「第7章 句読法の歴史的変化に見る動的語用論の可能性 - イギリス英語のfull stopを中心に - 」	無 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年
オープンアクセス       オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 柴崎礼士郎       と . 論文標題 「第7章 句読法の歴史的変化に見る動的語用論の可能性 - イギリス英語のfull stopを中心に - 」         3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 柴崎礼士郎         2 . 論文標題 「第7章 句読法の歴史的変化に見る動的語用論の可能性 - イギリス英語のfull stopを中心に - 」	無 国際共著 - 4.巻 - 5.発行年 2019年
オープンアクセス       オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 柴崎礼士郎       と . 論文標題 「第7章 句読法の歴史的変化に見る動的語用論の可能性 - イギリス英語のfull stopを中心に - 」         3 . 雑誌名	無 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス	無 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 144-165
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名	無 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 144-165
オープンアクセス	無 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 144-165
オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 柴崎礼士郎         2 . 論文標題 「第7章 句読法の歴史的変化に見る動的語用論の可能性 - イギリス英語のfull stopを中心に - 」         3 . 雑誌名 田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝(編)『動的語用論の構築へ向けて1』(開拓社)         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	無 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 144-165
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 柴崎礼士郎  2 . 論文標題 「第7章 句読法の歴史的変化に見る動的語用論の可能性 - イギリス英語のfull stopを中心に - 」  3 . 雑誌名 田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝(編)『動的語用論の構築へ向けて1』(開拓社)	無 国際共著 - 4 . 巻 - 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 144-165

1 . 著名名 素 接稿人上郎		1
2 . 論文標題 「第 4 章 句読法から語用論標識へ Periodの談話機能の発達と今後のアメリカ英語について 」		4.巻
第4章 句読法から語用論権調へ Periodの談話機能の発達と今後のアメリカ英語について 」 2019年   2019年   3 ・静経名   住吉越・鈴木亨・西村義樹(鰡) "個用表現・室創的表現から見える英語の姿』(開拓社)	柴崎礼士郎	-
第4章 句読法から語用論権調へ Periodの談話機能の発達と今後のアメリカ英語について 」 2019年   2019年   3 ・静経名   住吉越・鈴木亨・西村義樹(鰡) "個用表現・室創的表現から見える英語の姿』(開拓社)		
3 . 科証名 住吉誠・鈴木亨・西村養樹(編)『慣用表現・愛削的表現から見える英語の姿』(開拓社) 54-69  「大きなし	2.論文標題	5.発行年
任吉誠・鈴木亨・西村義樹(輪)『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』(開拓社)	「第4章 句読法から語用論標識へ Periodの談話機能の発達と今後のアメリカ英語について 」	2019年
任吉誠・鈴木亨・西村義樹(輪)『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』(開拓社)		
### おから	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
### おから	住吉誠・鈴木亨・西村義樹(編)『慣用表現・変則的表現から見える英語の姿』(開拓社)	
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	THE BY SAME CHANGE (MIND) INC. INC. INC. INC. INC. INC. INC. INC.	0.00
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
国際共著   1 著名名   2 計文   2 1		
1 著名名	4.0	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
1 著名名	オープンアクセス	国際共著
1 ・ 著名名		_
契約社部       -         2 . 論文標題 「監訳者解説(Bybee 2015)」       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 (小川芳樹・柴崎礼士郎(監訳)『言語はどのように変化するのか』(Joan Bybee, Language change, Cambridge UP, 2015)       6 . 最初と最後の頁 400-415         超数論文のDOI(デジタルオブジェクト調別子)なし       直読の有無 無         オープンアクセス 中山俊秀       4 . 巻 - -         2 . 論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集       6 . 最初と最後の頁 307-308         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト調別子)なし       直読の有無 無         オープンアクセス The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara       4 . 巻 12         3 . 維護者 Nara, Bologna, and Santa Barbara       6 . 最初と最後の頁 - -         3 . 維護者 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies       6 . 最初と最後の頁 - -         現業会のDOI(デジタルオブジェクト調別子)なし       査読の有無 なし         オープンアクセス       面読の有無 有	3 フンノノこれではない、人間3 フンノノこれが四無	
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	1 菜字夕	/ <sub>4</sub> 类
2 . 論文標題 「監訳者解説(Bybee 2015)」  3 . 雑誌名 小川芳樹・柴崎礼士郎(監訳)『言語はどのように変化するのか』(Joan Bybee, Language change,		
「監訳者解説(Bybee 2015)」  3 . 雑誌名 小川芳樹・柴崎礼士郎(監訳)『言語はどのように変化するのか』(Joan Bybee, Language change, Cambridge UP, 2015) 掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス  1 . 著者名 中山俊秀  2 . 論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法  3 . 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集  掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  4 . 巻 - 2 . 論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法  3 . 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集  掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス	采呵化工即	-
「監訳者解説(Bybee 2015)」 2019年 3. 雑誌名 小川汚樹・柴崎礼士郎(監訳)『言語はどのように変化するのか』(Joan Bybee, Language change, 400-415 6. 最初と最後の頁 400-415	2 於中価度	F 整体
3 . 雑誌名		
### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  #### A Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  ###################################	'監試者解說(Bybee 2015)」	2019年
小川芳樹・柴崎礼上郎(監訳)。 言語はどのように変化するのか。(Joan Bybee, Language change, Cambridge UP, 2015)		
ambridge、Cambridge UP、2015) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1.著者名 中山俊秀  2.論文標題 「適じる」ためのリソースとしての文法  3.雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1.著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2.論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  「表読の有無 ない  1.著者名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  「表読の有無 ない  1.著読の有無 ない  2.論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  「表読の有無 ない  1 本 で で で		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 中山俊秀 2 . 論文標題 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集 5 . 発行年 207-708		400-415
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 「おきれている。」 「著者名 中山俊秀 「中山俊秀」 「おいまな標題」「適じる」ためのリソースとしての文法 「おいまな言語科学会第44回大会発表論文集 「おいまな言語科学会第44回大会発表論文集 「おいまな」」 「「デジタルオプジェクト識別子」 「本し 「「アジタルオプジェクト識別子」 「本し 「「アジタルオプジェクト 「大きれている」」 「「アジタルオプジェクト 「大きれている」」 「「「アジタルオプジェクト 「大きれている」」 「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」」」」」」」 「「「「」」」」 「「「」」」 「「」」」 「「「」」 「」」 「」 「	Cambridge, Cambridge UP, 2015)	
### オープンアクセス		
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 中山俊秀 2. 論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法 3. 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko 2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bolgona, and Santa Barbara 3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なは 5. 発行年 2019年 2019年 2019年 3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 有 オープンアクセス 国際共著	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
コープンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1 ・著者名 中山俊秀 - 2 ・論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法 5 ・ 発行年 2020年 3 ・ 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集 6 ・ 最初と最後の頁 307-308 種類 エーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1 ・著者名 Nakano、Hiroyuki; Takanashi、Hiroko 1 ・ 著者名 Nakano、Hiroyuki; Takanashi、Hiroko 1 ・ 著者名 Nakano、Hiroyuki; Takanashi、Hiroko 1 ・ 第 ・ 第 ・ 第 ・ 第 ・ 第 ・ 第 ・ 第 ・ 第 ・ 第 ・	なし	無
オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難		
1. 著書名 中山俊秀       4.巻 -         2. 論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法       5.発行年 2020年         3. 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集       6.最初と最後の頁 307-308         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著         1. 著書名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko       4.巻 12         2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara       5.発行年 2019年         3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies       6.最初と最後の頁 -         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセス	国際共著
中山俊秀-2.論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法5.発行年 2020年3.雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集6.最初と最後の頁 307-308掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著 1. 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko4.巻 122.論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara5.発行年 2019年3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies6.最初と最後の頁 -掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 有オープンアクセス国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
中山俊秀  2. 論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法  3. 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集  4. 最初と最後の頁 307-308  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1. 著者名 Nakano, Hi royuki; Takanashi, Hi roko  2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  4. 是 2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  「最載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  カープンアクセス  国際共著		
中山俊秀  2. 論文標題 「通じる」ためのリソースとしての文法  3. 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集  4. 最初と最後の頁 307-308  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1. 著者名 Nakano, Hi royuki; Takanashi, Hi roko  2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  4. 是 2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  「最載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  カープンアクセス  国際共著	1.著者名	4 . 巻
2.論文標題 5.発行年 2020年  3.雑誌名 4.書語科学会第44回大会発表論文集 6.最初と最後の頁 307-308  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	—	
通じる」ためのリソースとしての文法 2020年 2020年 2020年 3 . 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集 6 . 最初と最後の頁 307-308	1 4073	_
通じる」ためのリソースとしての文法 2020年 2020年 2020年 3 . 雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集 6 . 最初と最後の頁 307-308	2 論文標題	5 発行年
3.雑誌名 社会言語科学会第44回大会発表論文集	·····	
社会言語科学会第44回大会発表論文集  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オーブンアクセス  オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1. 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  国際共著	E001/2007/	2020-
社会言語科学会第44回大会発表論文集  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  国際共著	3、雄蚌夕	6 最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 知際共著 まープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 エープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 エーガンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 エーガンアクセスが困難 エーガンアクセスが困難 エーガンアクセスが困難 エーガンアクセスが困難 エーガン は		
無 カープンアクセス 国際共著 - コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko 12 2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara 3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies 6 . 最初と最後の頁 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies 右 オープンアクセス 国際共著	位云言品付子云第44四人云光衣謂义朱	307-306
無 オープンアクセス 国際共著 - コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko 1. 2 1. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara 3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies 6. 最初と最後の頁 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies 7 2 2 3 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		
無 カープンアクセス 国際共著 - コープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko 12 1. 論文標題 5.発行年 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara 3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies 6.最初と最後の頁 - 日報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 14 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	掲載絵文のDOL(デジタルオブジェクト幾別スト	   本誌の右冊
オープンアクセス    本のではない、又はオープンアクセスが困難   国際共著   1.著者名   A . 巻   12   12   12   12   13   14   15   15   15   15   15   15   15	·	
*** オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - ***  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko		<del>                                      </del>
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko	<i>A</i> 0	
1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko 2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara 3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著		
Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  本プンアクセス	オープンアクセス	国際共著
Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2. 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3. 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  本一プンアクセス  12  5. 発行年 2019年 6. 最初と最後の頁 -  査読の有無 有	オープンアクセス	国際共著
2.論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  有  コープンアクセス  国際共著	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし  有  国際共著	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	- 4 . 巻
The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  有  コープンアクセス	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	- 4 . 巻
Nara, Bologna, and Santa Barbara  3.雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  有  コープンアクセス	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko	- 4.巻 12
Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし  オープンアクセス  国際共著	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko 2 . 論文標題	- 4.巻 12 5.発行年
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies - 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of	- 4.巻 12 5.発行年
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies - 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセス	- 4.巻 12 5.発行年 2019年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 有 国際共著	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara	- 4.巻 12 5.発行年 2019年
なし     有       オープンアクセス     国際共著	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名	- 4.巻 12 5.発行年 2019年
なし     有       オープンアクセス     国際共著	オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名	- 4.巻 12 5.発行年 2019年
なし     有       オープンアクセス     国際共著	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	- 4.巻 12 5.発行年 2019年
オープンアクセス 国際共著	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies	- 4 . 巻 12 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 -
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	- 4 . 巻 12 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 -
	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	- 4 . 巻 12 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
a //// checonologic collection	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	- 4 . 巻 12 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
	オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Nakano, Hiroyuki; Takanashi, Hiroko  2 . 論文標題 The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara  3 . 雑誌名 Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	- 4 . 巻 12 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁

1 英字夕	4 . 巻
1.著者名	4 . 含 22
中野宏幸・髙梨博子	22
o *A	F 78.7= F
2 . 論文標題	5 . 発行年
第59回運輸政策セミナー「インバウンド観光と対話・コミュニケーション」	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
運輸政策研究	157-163
ÆTDPAN NI / U	107 100
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
	□ 7/r ↓↓ <del>· · ·</del>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
高梨博子	_
间木付 J	_
2.論文標題	5 . 発行年
観光の詩的パフォーマンス:日米欧の都市の事例から	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『ことばの詩 生活の詩 社会の詩 日常の中のポエティクス』(愛知大学人文社会学研究所主催シンポ	41-54
ジウム報告書)	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
堀内ふみ野	19
AUL 313.00 E3	
2 . 論文標題	5 . 発行年
対話から文法へ:overの習得を支える多層的な文脈	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本認知言語学会論文集	311-323
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	
なし	査読の有無無
なし オープンアクセス	査読の有無
なし	査読の有無無
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	査読の有無 無 国際共著 -
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	査読の有無無
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	査読の有無 無 国際共著 -
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2
なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名  堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題  発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2020年
なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名  堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題  発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察  3 . 雑誌名	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名  堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題 発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2020年
なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名  堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題  発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察  3 . 雑誌名	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
なし         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀         2 . 論文標題 発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察         3 . 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 176-197
なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名  堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題  発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察  3 . 雑誌名	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
なし         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀         2 . 論文標題 発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察         3 . 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 176-197 査読の有無
なし         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀         2 . 論文標題 発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察         3 . 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 176-197
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題 発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察  3 . 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 176-197
オープンアクセス	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 2 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 176-197 査読の有無
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 堀内ふみ野・中山俊秀  2 . 論文標題 発話頭の「八」成立の動機付け:動的文法観に基づく一考察  3 . 雑誌名 『動的語用論の構築へ向けて』  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	直読の有無 無 国際共著 - 4.巻 2 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 176-197

1.著者名	4 . 巻
堀内ふみ野	3
Amt 3.210.7 €3	
A A A TOTAL	
2 . 論文標題	5 . 発行年
- その焼豚がまたおいしいんだけどさ:「また」の属性累加用法の談話文法的分析	2020年
2 145+47	て 見知し目後の否
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
│ 『日本語語用論フォーラム』	-
Hamada and Carlotte Laboratory and the Carlotte Laboratory	1 + b+ a + m
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
	国際共著
	国际共有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	•
4 ****	1 4 <del>Y</del>
1 . 著者名	4 . 巻
堀内ふみ野	37
2 5公分+面店	F 発仁在
2 . 論文標題	5.発行年
子どもの前置詞句単独発話:談話的文脈と前置詞ごとの相違の観点から	2020年
3.雑誌名	6 早知と早後の百
	6.最初と最後の頁
JELS	-
##\\\\_\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
はし なし こうしゅう しゅうしゅう しゅう	有
	'3
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 コー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
カープンテクと人ではない、人はカープンテクと人が四無	
1.著者名	4 . 巻
1 . 著者名	4.巻
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki	43
1 . 著者名	5 . 発行年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2 . 論文標題	43
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki	5 . 発行年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages	43 5.発行年 2019年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages 3 . 雑誌名	5 . 発行年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages 3 . 雑誌名	43 5.発行年 2019年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages 3 . 雑誌名	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki 2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages 3 . 雑誌名	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253 査読の有無
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253
1.著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2.論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3.雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sI.00014.int	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253 査読の有無
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sI.00014.int  オープンアクセス	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sI.00014.int  オープンアクセス	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253 査読の有無
1.著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2.論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3.雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sI.00014.int	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sI.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253 査読の有無 無 国際共著 該当する
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253 査読の有無 無 国際共著 該当する
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sI.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/s1.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題	43 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/s1.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43  5.発行年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/s1.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43  5.発行年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/s1.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/s1.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sI.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 364-401
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/s1.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 364-401  査読の有無
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 364-401
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sl.17032.lau	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 364-401  査読の有無 有
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/sl.17032.lau  オープンアクセス	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 364-401  査読の有無 有
1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 論文標題 On the notion of unit in the study of human languages  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sl.00014.int  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Laury, Ritva, Ono Tsuyoshi, and Suzuki Ryoko  2 . 論文標題 Questioning the clause as a crosslinguistic unit in grammar and interaction  3 . 雑誌名 Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units Studies in Language Special Issue  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1075/sl.17032.lau	43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 245-253  査読の有無 無 国際共著 該当する  4.巻 43 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 364-401  査読の有無 有

	1 . ***
1.著者名	4 . 巻
鈴木亮子・大野剛	_
2 . 論文標題	5 . 発行年
認知形態論	2019年
1000円	2019 <del>年</del>
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『認知言語学大辞典』	94-104
	01 101
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オーノファクセスとはない、又はオーノファクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
中山俊秀	18
114 (875	.0
0 - 50-4	F 38/-/-
2.論文標題	5 . 発行年
言語知識はどのような形をしているのか	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本認知言語学会論文集	580-585
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
40	***
10	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
	_
Endo, Tomoko, Anna Vatanen & Daisuke Yokomori	21(1)
2 . 論文標題	5 . 発行年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in	5 . 発行年 2018年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction	2018年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction 3.雑誌名	2018年 6 . 最初と最後の頁
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction	2018年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction 3.雑誌名	2018年 6 . 最初と最後の頁
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction 3.雑誌名	2018年 6 . 最初と最後の頁
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3 . 雑誌名 社会言語科学	2018年 6 . 最初と最後の頁 160-174
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2018年 6.最初と最後の頁 160-174 査読の有無
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3 . 雑誌名 社会言語科学	2018年 6 . 最初と最後の頁 160-174
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160	2018年 6.最初と最後の頁 160-174 査読の有無 有
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160 オープンアクセス	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160 オープンアクセス	2018年 6.最初と最後の頁 160-174 査読の有無 有
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著 該当する
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著 該当する
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著  該当する  4.巻 SLCS198
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著  該当する  4.巻 SLCS198
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou  2.論文標題	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou  2.論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著  該当する  4.巻 SLCS198
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Shibasaki, Reijirou  2. 論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou  2.論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3.雑誌名	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou  2.論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3.雑誌名	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou  2.論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3.雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Shibasaki, Reijirou  2.論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3.雑誌名	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Shibasaki, Reijirou  2 . 論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3 . 雑誌名 Explorations in English Historical Syntax	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 283-306
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3. 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Shibasaki, Reijirou  2. 論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3. 雑誌名 Explorations in English Historical Syntax	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 283-306
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Shibasaki, Reijirou  2 . 論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3 . 雑誌名 Explorations in English Historical Syntax	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 283-306
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3. 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Shibasaki, Reijirou  2. 論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3. 雑誌名 Explorations in English Historical Syntax	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 283-306
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Shibasaki, Reijirou  2 . 論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3 . 雑誌名 Explorations in English Historical Syntax  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/slcs.198.12shi	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 283-306  査読の有無 有
Agreeing in overlap: A comparison of response practices and resources for projection in Finnish, Japanese and Mandarin talk-in-interaction  3. 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.21.1_160  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Shibasaki, Reijirou  2. 論文標題 "Sequentiality and the emergence of new constructions: That's the bottom line is (that) in American English"  3. 雑誌名 Explorations in English Historical Syntax	2018年 6.最初と最後の頁 160-174  査読の有無 有 国際共著 該当する  4.巻 SLCS198  5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 283-306

	4 344
1. 著者名	4.巻
Shibasaki, Reijirou	SLCS202
a AAA ITRI	= 7v./= <del>/-</del>
2 . 論文標題	5 . 発行年
"From the inside to the outside of the sentence: Forming a larger discourse unit with jijitsu	2018年
'fact' in Japanese"	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
New Trends in Grammaticalization and Language Change	333-360
The state of the s	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1075/slcs.202.14shi	有
10.107070100.202.14011	
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
3 フンノノこれにはない、人は3 フンノノこれが出来	<u> </u>
1 . 著者名	4 . 巻
	_
Endo, Tomoko	123
2	F マシィニケエ
2 . 論文標題	5.発行年
The Japanese change-of-state tokens a and aa in responsive units	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Pragmatics	151-166
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1016/j.pragma.2017.06.010	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	-
	A 44
1 . 著者名	4. 夸
1.著者名 遠藤 智子 横森 大輔 林 誠	4.巻
1.著者名 遠藤 智子、横森 大輔、林 誠	4 . 管 20
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠	20
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠 2 . 論文標題	5 . 発行年
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠	20
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き	5.発行年 2017年
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き	5.発行年 2017年
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著
<ul> <li>遠藤 智子、横森 大輔、林 誠</li> <li>2. 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き</li> <li>3. 雑誌名 社会言語科学</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100</li> <li>オープンアクセス</li></ul>	20 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠         2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き         3 . 雑誌名 社会言語科学         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are         2 . 論文標題	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 123
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-	20 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction	20 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 123 5.発行年 2018年
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction  3 . 雑誌名	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 123 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction	20 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 123 5.発行年 2018年
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction  3 . 雑誌名	20 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 123 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction  3 . 雑誌名 Journal of Pragmatics	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 4 . 巻 123 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 167-191
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction  3 . 雑誌名 Journal of Pragmatics	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 123 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 167-191
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction  3 . 雑誌名 Journal of Pragmatics	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 4 . 巻 123 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 167-191
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction 3 . 雑誌名 Journal of Pragmatics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2017.06.012	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 123 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 167-191 査読の有無 有
遠藤 智子、横森 大輔、林 誠  2 . 論文標題 確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」 認識的スタンス標識の相互行為上の働き  3 . 雑誌名 社会言語科学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.19024/jajls.20.1_100  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Yokomori, Daisuke, Yasui Eiko, and Hajikano Are  2 . 論文標題 Registering the receipt of information with a modulated stance: A study of ne -marked other-repetitions in Japanese talk-in-interaction  3 . 雑誌名 Journal of Pragmatics	5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 100-114 査読の有無 有 国際共著 4 . 巻 123 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 167-191

1 . 著者名	4 . 巻
横森大輔	1
0 *A-1=0x	5 7%/= fT
2. 論文標題	5.発行年
認識的スタンスの表示と相互行為プラクティス:「やっぱり」が付与された極性質問発話	2017年
2. PRST-67	て 見知に見後の百
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『話しことばへのアプローチ:創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦』	113-143
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	■ 査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
	国际共有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 7 7 7 7 7	1 4 <del>*</del>
1 . 著者名	4.巻
横森大輔	36(4)
2	F 発仁左
2.論文標題	5 . 発行年
言い淀み・フィラー・母音延伸	2017年
つ かは÷± 々	6 見知し見後の五
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本語学	140-151
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	本誌の左仰
	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
	四际共有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
—	4.含   1
Nakayama, Toshihide	'
2 . 論文標題	5.発行年
······	2017年
Polysynthesis in Nuuchahnulth, A Wakashan Language	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
In: Michael Fortescue, Marianne Mithun, and Nicholas Evans (eds.) The Oxford Handbook of Polysynthesis. Oxford: Oxford University Press.	603-622
rotysylttlests. Oxford. Oxford differently riess.	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	■ 査読の有無
なし	有
4. U	i i i
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
カープンプラビスではない。 大阪カープンプラフビスカ 四無	
	4 . 巻
中山俊秀	4.含   18
1	10
2 . 論文標題	5.発行年
2. 間又保超 言語知識はどのような形をしているのか	2017年
口目がHBMはC シタンタルで O C V I S シンゴ・	2017-
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本認知言語学会論文集	11-22
ロTWMロHTムM人木	11-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
' <b>&amp;</b> ♥	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	

1.著者名	4 . 巻
大野剛、中山俊秀	1
2、 於中価時	F 琴/二左
2.論文標題	5.発行年
文法システム再考:話しことばに基づく文法研究に向けて	2017年
2 htt:+	こ 見知に見後の五
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『話しことばへのアプローチ:創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦』	5-34
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
	1
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
4 ***	4 44
1 . 著者名	4 . 巻
土屋智行	1
0 AA-LITET	= 7V./= (-
2. 論文標題	5.発行年
網羅的なパターン束分析からみる構文の状況依存性	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
言語処理学会第24回年次大会発表論文集	584-587
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
土屋智行	17
2 . 論文標題	5.発行年
参与者をつなぐメディアと身体性 手法と展開	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本認知言語学会論文集	465 - 471
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
鈴木亮子	1
2. 論文標題	5.発行年
話しことばに見る言語変化	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『話しことばへのアプローチ:創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦』	39-64
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
<del>*</del> -	,
オープンアクセス	国際共著
	—·····
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_

1.著者名	4 . 巻
Ono, Tsuyoshi and Ryoko Suzuki	123
one, region and typic cazati	
0 40 b 15 05	= 2V./= h=
2 . 論文標題	5 . 発行年
The use of frequent verbs as reactive tokens in Japanese everyday talk: Formulaicity,	2018年
florescence, and grammaticization	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Pragmatics	209-219
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1016/j.pragma.2017.07.001	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
3 JOS JENCIA VI XIA JOS JENGIA	W = 1 / 6
1.著者名	4 . 巻
Endo, Tomoko	39
	5.発行年
·····	
Sequential positions and interactional functions of negative epistemic constructions in	2023年
Japanese conversation	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Japanese Linguistics	37-57
Outrial of Japanese Linguistics	31-31
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1515/jjl-2023-2005	有
	[7]
オープンアクセス	国際サ菜
	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 菜老夕	A
1.著者名	4.巻
1.著者名 Yokomori, Daisuke	4.巻 39
Yokomori, Daisuke	39
Yokomori, Daisuke 2 . 論文標題	5 . 発行年
Yokomori, Daisuke	39
Yokomori, Daisuke 2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication	5 . 発行年 2023年
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
Yokomori, Daisuke 2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication	5 . 発行年 2023年
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79 査読の有無
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79 査読の有無
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有  国際共著
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有 国際共著
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有  国際共著
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有 国際共著
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2. 論文標題	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有  国際共著 - 4.巻 39 5.発行年
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2. 論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3.雑誌名	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁
Yokomori, Daisuke  2. 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2. 論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3.雑誌名	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-163
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3.雑誌名	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 145-163
Yokomori, Daisuke  2.論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2.論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3.雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 59-79 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 39 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 145-163
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2 . 論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2010	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 145-163  査読の有無 有
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2006  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2 . 論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjI-2023-2010  オープンアクセス	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 145-163
Yokomori, Daisuke  2 . 論文標題 Kedo-ending turn format as a formula for a problem statement with a deontic implication  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2006 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama  2 . 論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts  3 . 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2023-2010	39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 59-79  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 39 5.発行年 2023年 6.最初と最後の頁 145-163  査読の有無 有

1.著者名	4 . 巻
Tsuchiya, Tomoyuki	39
A A A TOTAL	_ 72./= (-
2.論文標題	5 . 発行年
Formulaicity of fictional quotative ga itteta and its functions in Japanese social media posts	2023年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Japanese Linguistics	125-144
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
10.1515/jjl-2023-2009	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

│ 1.著者名	4 . 巻
Takanashi, Hiroko	39
2.論文標題	5 . 発行年
The utterance-final tari site construction in interaction: a general extender as a play stance	2023年
marker	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Japanese Linguistics	81-104
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1515/jjl-2023-2007	有
	·
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

## 〔学会発表〕 計138件(うち招待講演 32件/うち国際学会 74件)

1.発表者名

Shibasaki, Reijiro

2 . 発表標題

"Diachronic aspects of what matters is in American English and issues concerning grammaticalization"

3 . 学会等名

2022 Seoul International Conference on Linguistics (SICOL-2022) (国際学会)

4.発表年

2022年

1.発表者名

Shibasaki, Reijiro

2 . 発表標題

"Thoughts race through my mind: Discourse-pragmatic markers in Japanese from the perspective of East Asian languages and beyond"

3 . 学会等名

Workshop: Discourse Grammar and Formation of Discourse Markers (招待講演) (国際学会)

4 . 発表年

2022年

1. 発表者名
Nykiel, Jerzy N. & Reijirou Shibasaki
2. 発表標題
"On the rise and fall of (it/there) is no nay in the history of English"
3. 学会等名
The Colloque Bisannuel de la Diachronie de l'Anglais 7 (CBDA-7) (国際学会)
The softeque bisamilater at ta bracking the tar Angrais 7 (BBA 7) (BBA 7)
4.発表年
2023年
EVEC 7
1.発表者名
Shibasaki, Reijiro
Ullipasaki, keljilo
2 . 発表標題
"(De)grammaticalization in Japanese through language contact with European languages"
(/3
3.学会等名
Linguistics and Data Science in Collaboration DaSiC 6 (2022)(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2023年
1. 発表者名
Shibasaki, Reijiro
o 7V-1-EDE
2. 発表標題
"On the role of writing systems in the process of grammaticalization"
3.学会等名
う、チスサロ The 30th Japanese/Korean Linguistics Conference (JK30)(国際学会)
THE SUCH Japanese/kurean Linguistres conference (JkSu) (国际子云 )
4.発表年
4 . 発表年 2023年
4 . 発表年 2023年 1 . 発表者名
4 . 発表年 2023年
4 . 発表年 2023年 1 . 発表者名
4 . 発表年 2023年 1 . 発表者名
4.発表年 2023年 1.発表者名 Takanashi,Hiroko
4.発表年 2023年 1.発表者名 Takanashi,Hiroko 2.発表標題
4.発表年 2023年 1.発表者名 Takanashi,Hiroko
4.発表年 2023年 1.発表者名 Takanashi,Hiroko 2.発表標題
4 . 発表年 2023年 1 . 発表者名 Takanashi, Hiroko 2 . 発表標題 The Interactional Performance and Authentication of Tourism Experience
4 . 発表年 2023年 1 . 発表者名 Takanashi, Hiroko 2 . 発表標題 The Interactional Performance and Authentication of Tourism Experience
4 . 発表年 2023年 1 . 発表者名 Takanashi, Hiroko 2 . 発表標題 The Interactional Performance and Authentication of Tourism Experience
4.発表年 2023年  1.発表者名 Takanashi, Hiroko  2.発表標題 The Interactional Performance and Authentication of Tourism Experience  3.学会等名 The 3rd International Conference on Sociolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2023年  1. 発表者名 Takanashi, Hiroko  2. 発表標題 The Interactional Performance and Authentication of Tourism Experience  3. 学会等名 The 3rd International Conference on Sociolinguistics (国際学会)  4. 発表年
4.発表年 2023年  1.発表者名 Takanashi, Hiroko  2.発表標題 The Interactional Performance and Authentication of Tourism Experience  3.学会等名 The 3rd International Conference on Sociolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2023年  1. 発表者名 Takanashi, Hiroko  2. 発表標題 The Interactional Performance and Authentication of Tourism Experience  3. 学会等名 The 3rd International Conference on Sociolinguistics (国際学会)  4. 発表年

1.発表者名
中野宏幸・高梨博子
2.発表標題
クロノトポスの概念の活用による都市形成と対話的交流の分析
3.学会等名
第37回日本観光研究学会全国大会
4 . 発表年
2022年
1.発表者名
高梨博子
2 . 発表標題
ことばの創造性と話し手の行為主体性 言語形式と共感の響鳴をめぐって
3.学会等名
Formulaicity in Interaction 2023「定型性から出発するアプローチが、言語研究のありかたをどう変えるか」
4.発表年
2023年
1.発表者名
中野宏幸・高梨博子
2.発表標題
国内外都市における観光の取組 対話を通じた都市の魅力の創出
3.学会等名
小田原・箱根SGGクラブ1月例会(招待講演)
4 . 発表年
2023年
1 . 発表者名
堀内ふみ野・土屋智行
2.発表標題
[X、なN]にみる 構文のモード依存性
3.学会等名
社会言語科学会第47回研究大会 ワークショップ「認知と社会のダイナミズム 創発・伝播・規範から読み解く言語現象の諸相 」
4 . 発表年 2023年
2023+

1 . 発表者名 堀内ふみ野・中山俊秀・土屋智行
2 . 発表標題 打ち言葉の逸脱的表現から見る定型化
3.学会等名 Formulaicity in Interaction 2023
4 . 発表年 2023年
2020-
1.発表者名 土屋智行
2 . 発表標題
言語モードのデータ間比較に向けて: 収集手法と音声データの比較
3.学会等名
Formulaicity in Interaction 2023
4 . 発表年 2023年
1.発表者名 横森大輔
2 . 発表標題 相互行為の中のプロソディ
3 . 学会等名 社会言語科学会第4回シンポジウム「プロソディを通して見る社会とコミュニケーション」
4.発表年 2022年
1.発表者名 中山俊秀
2 . 発表標題 文法体系の拡張:逸脱構文の発達事例から考える
3.学会等名
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2022年度第2回研究会
4 . 発表年 2022年

1.発表者名 吉川正人・中村文紀・PREADBURY Ash・堀内ふみ野・土屋智行
2 . 発表標題 認知と社会のダイナミズム 創発・伝播・規範から読み解く言語現象の諸相
3. 学会等名 第47回社会言語科学会研究大会
4 . 発表年 2023年
1 . 発表者名 中川奈津子・大野剛
2 . 発表標題 日本語の名詞修飾節 - 会話における構造と使用
3 . 学会等名 Formulaicity in Interaction 2023
4 . 発表年 2023年
1 . 発表者名 臼田泰如・大野剛
2 . 発表標題 日常会話における「動詞で終わる発話」の特徴 - 「違う」を例に
3 . 学会等名 「日常会話コーパス」シンポジウムVIII
4 . 発表年 2023年
1.発表者名 Ono, Tsuyoshi
2 . 発表標題 Trying to capture Japanese grammar in conversation
3 . 学会等名 East Asian Languages and Cultures, Stanford University(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2023年

1.発表者名
Laury, Ritva and Tsuyoshi Ono
2 . 発表標題
Ending or not ending "neverending sentences" in Finnish and Japanese conversation: syntax, semantics, prosody and
interaction
2. 光本祭存
3.学会等名
Mina ja muut: A scholar in the making, University of Tartu, Estonia(国際学会)
4 72 ± /r
4.発表年
2022年
4 72 = ±4.67
1.発表者名 
Ono, Tsuyoshi
2.発表標題
Z . 光花信题 Japanese are, reference, and bodily movement
Japanese are, reference, and bourry movement
3.学会等名
3. 子女女石 多世代会話コーパスプロジェクト、ショートトークの会
シに1Vム8Hョ ハハノロノエノ1、ノコ 11 ノツ云
4 . 発表年
2022年
LVLLT
1.発表者名
ロー発表有有 堀内ふみ野・中山俊秀
塩ビコンハレンテ±ッ゚゚で叫収乃
2.発表標題
ただの読点、だけどね:構文構成要素としての読点
ににいいが、にけて18・19人19以女がこしていが示
3.学会等名
日本言語学会第162回大会
4 . 発表年
2021年
<del>·</del> _·
1.発表者名
Horiuchi, Fumino
norraoni, i amino
2.発表標題
What kinds of prepositions are acquired through resonance?
2. propositiono are auguitou intengit toodimino.
3 . 学会等名
」、 ナムサロ
3 . 子云寺石 11th International Conference on Construction Grammar (国際学会)
11th International Conference on Construction Grammar(国際学会)
11th International Conference on Construction Grammar (国際学会) 4 . 発表年
11th International Conference on Construction Grammar(国際学会)
11th International Conference on Construction Grammar (国際学会) 4 . 発表年

1. 発表者名
Nakayama, Toshihide and Fumino Horiuchi
2 . 発表標題
'Structural incompletion' as a communicative strategy: What motivates utterances starting in the middle?
3 . 学会等名
16th International Conference of the European Association of Japanese Studies (国際学会)
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
Takanashi, Hiroko
2 . 発表標題
Poetic Performance in Walking Tour Discourse
3.学会等名
The 17th International Pragmatics Conference(国際学会)
4 . 発表年
2021年
4 · 水主大久
1.発表者名 Nakano Hirovuki and Hiroko Takanashi
1 . 発表者名 Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi 2.発表標題
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest,
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies(国際学会)  4 . 発表年 2021年
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies(国際学会)  4 . 発表年 2021年
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies(国際学会)  4 . 発表年 2021年
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 高梨博子・中野宏幸
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 高梨博子・中野宏幸
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 高梨博子・中野宏幸
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 高梨博子・中野宏幸
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2. 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3. 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4. 発表年 2021年  1. 発表者名 高梨博子・中野宏幸  2. 発表標題 渋沢栄一にみる異文化接触とコミュニケーション
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 高梨博子・中野宏幸  2 . 発表標題 渋沢栄一にみる異文化接触とコミュニケーション  3 . 学会等名 日本国際観光学会第25回全国大会
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 高製博子・中野宏幸  2 . 発表標題 渋沢栄一にみる異文化接触とコミュニケーション  3 . 学会等名 日本国際観光学会第25回全国大会  4 . 発表年
Nakano, Hiroyuki and Hiroko Takanashi  2 . 発表標題 The Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from the Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara  3 . 学会等名 The 14th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 高梨博子・中野宏幸  2 . 発表標題 渋沢栄一にみる異文化接触とコミュニケーション  3 . 学会等名 日本国際観光学会第25回全国大会

1 . 発表者名 中野宏幸・高梨博子
2
2.発表標題 外国人旅行者へのガイドツアーや応接におけるユーモアのある対話の分析 ホストとゲストの遊び心に着目して
3.学会等名
第36回日本観光研究学会全国大会
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 高梨博子
2.発表標題 相互行為における発話末の「~たりして」 遊びのスタンス標識としてのgeneral extender
3 . 学会等名 International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2022(国際学会)
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 中山俊秀
2 . 発表標題 用法基盤アプローチが関心を向ける「語」のリアリティ
3 . 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2021年度第2回 研究会
4 . 発表年 2021年
1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide and Fumiko Horiuchi
2. 発表標題 'Structural incompletion'as a communicative strategy: What motivates utterances starting in the middle?
3 . 学会等名 16th International Conference of the European Association of Japanese Studies (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1.発表者名 中山俊秀
2 . 発表標題 『周辺的』文法パターンは文法研究をどのように広げてくれるのか
3 . 学会等名 日本英語学会第39回大会(招待講演)
4 . 発表年
2021年
1.発表者名 中山俊秀
2 . 発表標題 扱いにくいデータが教えてくれること:逸脱的構文が明らかにする文法システムの文脈依存性
扱いにくいう一ラが教えてくれること、透胱的備文が明らかにする文法システムの文脈依存性
3.学会等名
AA研フォーラム:『アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築』
4 . 発表年 2021年
1 . 発表者名
堀内ふみ野,中山俊秀
2.発表標題
ネタさえあれば、だけどね:読点を含めた定型表現研究の可能性
3 . 学会等名 International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse (国際学会)
4.発表年 2021年
1 . 発表者名
Shibasaki, Reijiro
2 . 発表標題 "On the development of the projector the chances are that in American English: A constructional approach"
3 . 学会等名 The International Society for the Linguistics of English 6 (ISLE6 online, Theme: Evolving English and the Digital Era)(国際
学会) 4. 発表年
2021年

1.発表者名 Shibasaki, Reijiro
2 . 発表標題 "Thoughts on formulaic expressions in English in a cross-linguistic perspective"
magnic on resimulate expressions in Engiron in a cross ringulative perspective
3 . 学会等名 Norwegian Graduate Researcher School in Linguistics and Philology (online)(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1 . 発表者名 柴﨑礼士郎
2 . 発表標題 「適者生存? 二重最上級 bestest と worstest から考察する近現代英語」
3 . 学会等名 「近代英語協会第 38 回大会Zoom コンファレンス・シンポジウム「周辺表現はどのように英語標準化時代を生き抜いたのか 3つの事例か
ら考える」」(司会兼発表)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 Laury, Ritva, and Tsuyoshi Ono
2 . 発表標題 Complex syntax in Finnish and Japanese
Complex Syntax III I IIIII and Sapanese
3 . 学会等名
17th International Pragmatics Conference(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 Thompson, Sandra A. and Tsuyoshi Ono
Thompson, bandra A. and redyosin one
2. 発表標題
What do speakers do with Predicate Nominal Constructions in English conversation?
3 . 学会等名
17th International Pragmatics Conference(国際学会)
4.発表年
2021年

1.発表者名 大野剛
2 . 発表標題 日常会話から日本語を眺めてみよう
3 . 学会等名
第5回 Hi SoPra*研究会(歴史社会言語学・歴史語用論研究会)(招待講演)
4 . 発表年 2022年
1 . 発表者名 Ono, Tsuyoshi and Ritva Laury
2.発表標題
Sentence bias in the analysis of 'co-construction' in Japanese conversation
3 . 学会等名 より豊かな言語研究をめざす会(招待講演)
4 . 発表年
2021年
1 . 発表者名 Ono, Tsuyoshi and Ritva Laury
2 . 発表標題 Sentence bias in the analysis of 'co-construction' in Japanese conversation
3 . 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies(国際学会)
4.発表年 2021年
1 . 発表者名 Laury, Ritva and Tsuyoshi Ono
2 . 発表標題 Co-construction reconsidered: over-syntacticization in Interactional Linguistics
3 . 学会等名 4th International Conference on Interactional Linguistics and Chinese Language Studies(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2021年

1.発表者名
<b>丨,</b> 第衣有台
Endo, Tomoko
Elido, Tollioko
2.発表標題
De-ritualization as management of social roles: Multimodal analysis of ritual language and bodily behavior
be-intualization as management of social fores. Multimodal analysis of intual ranguage and bourty behavior
3.学会等名
International Pragmatics Conference (国際学会)
International Fragmatics conference (国际子云)
4.発表年
2021年
1.発表者名
土屋智行
a Web 1907
2.発表標題
SNS上の定型表現の創造的拡張:語順のスクランプリングに着目して
3.学会等名
Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2022(国際学会)
of important of Formatatory in Interactional Dissource 2022 (Elph CA)
. 3% ± Ir
4.発表年
2022年
1.発表者名
Yokomori, Daisuke
2.発表標題
/ 华表栏组
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English 3.学会等名
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English 3.学会等名
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年
Formulaic utterances as resources for the pragmatic function of noun-modifying reported speeches in English  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年 2021年  1 . 発表者名 Suzuki, Ryoko  2 . 発表標題 Is the copula for the equation?: Copula da and the related patterns in Japanese everyday talk.  3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference (国際学会)  4 . 発表年

1.発表者名 鈴木亮子、大野剛、第十早織
2 . 発表標題 動詞の繰り返しからreative tokenへ
3.学会等名 International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2022(国際学会)
4 . 発表年 2022年
1.発表者名 鈴木亮子
2.発表標題「いやいや」:ほめへの応答パターン
3 . 学会等名 国立国語研究所シンポジウム「日常会話コーパス」ポスターセッション
4 . 発表年 2022年
1.発表者名
大野剛、鈴木亮子
2.発表標題 会話の行けるPseudo-cleftってこっちじゃない?
3 . 学会等名 国立国語研究所シンポジウム「日常会話コーパス」ポスターセッション
4 . 発表年 2022年
1.発表者名
堀内ふみ野
2.発表標題 子どもの前置詞産出における響鳴率の異なり
3 . 学会等名 言語変化・変異研究ユニット主催 第6回ワークショップ
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 堀内ふみ野・中山俊秀
2 . 発表標題 「ネタさえあれば、だけどね」 読点を含めた定型表現研究の可能性
3 . 学会等名 Online International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1 . 発表者名 中山俊秀・堀内ふみ野
2 . 発表標題 発話を超えて発達した定型性 係助詞八で始まる発話
3 . 学会等名 Online International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse(国際学会)
4 . 発表年 2021年
4
1 . 発表者名 中野宏幸・高梨博子
2.発表標題 対話原理に基づくインバウンドディスコースにおける視座の分析 ボランティアガイド活動におけるホストとゲストの行動に着目して
2.
3 . 学会等名 日本観光研究学会第35回全国大会研究ワークショップ
4 . 発表年 2020年
1.発表者名 高梨博子
2 . 発表標題 遊びの相互行為における言葉の共創 定型性と新奇性の観点から
3 . 学会等名 International Symposium "Formulaicity in Interactional Discourse" (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 鈴木亮子
2 . 発表標題 新表現の創発 新しくない中にある新しさ
3 . 学会等名 International Symposium "Formulaicity in Interactional Discourse"(国際学会)
4 . 発表年 2021年
1.発表者名 Endo, Tomoko
2 . 発表標題 Body-language collaboration in object transfer requests in Japanese conversation
3 . 学会等名  Japanese/Korean Linguistics (国際学会)
4 . 発表年
2020年
1.発表者名 Shibasaki, Reijirou
2 . 発表標題 "Pronominal vs. nominal forms of direct object in Late Modern through Present Day English"
3.学会等名 More thoughts on (in)transitivity and related issues inThe 92nd Annual Conference of English Literary Society of Japan (ELSJ-92) Web Conference (日本英文学会第92回全国大会ウェップカンファレンス)(国際学会)
4 . 発表年 2020年
=v=v i
1.発表者名 Shibasaki, Reijirou
2 . 発表標題 "Some notes on the emergence of full stop as a pragmatic marker in the history of British English"
3.学会等名
2020 International Conference on English Linguistics (Kyung Hee University, Seoul [online]), org by The Korean Association for the Study of English Language and Linguistics (KASELL)(国際学会)
4 . 発表年 2020年

1. 発表者名
柴﨑礼士郎
2 . 発表標題
「たしかに」の談話機能と定型性について
3.学会等名
International symposium "Formulaicity in interactional discourse"
4 · 光农中   2021年
20214
1.発表者名
横森大輔
ここれでは   会話は構文文法にどんな示唆を与えるか
3 . 子云寺石     日本認知言語学会第21回全国大会
日本的和自由于安苏21世主国八安 
4 . 発表年
2020年
1. 発表者名
横森大輔
2 . 発表標題
語り連鎖における「ってゆう」発話の働き
International symposium "Formulaicity in interactional discourse"(国際学会)
4 . 発表年
2020年
1.発表者名
Tsuchiya, Tomoyuki
Z . 完衣標題   Extracting and Analyzing English Multi-word Expressions with Slots: A Case Study of 'take'
באנומטנוווע מוומ אוומוועבוווע בווערוטוו ווייטווע באףוטטטוטווט וויוטוטנט. א טמטט טנעטע טו במאכ
3.学会等名
言語処理学会
2021年

1.発表者名
Ono, Tsuyoshi
2.発表標題
Toward understanding the language of Japanese everyday talk: Inconspicuous yet pervasive formulaicity
a. W.A. detaile
3. 学会等名
Online International Symposium 'Formulaicity in interactional discourse'(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
Tsuchiya, Tomoyuki
2 . 発表標題
Imaginary Situation in Japanese SNS Quotes: The Case of "A High School Girl in McDonald's" and "Carl Loffler"
3.学会等名
Workshop on Formulaicity and Referentiality in Discourse(国際学会)
4.発表年
2020年
1 . 発表者名
土屋智行
2 . 発表標題
言語の慣習性を中心とした言語研究の手法と展開
3. 学会等名
日本言語教育ICT学会(招待講演)
4. 発表年
2019年
1.発表者名
Endo, Tomoko
2. 発表標題
Membership and participation: Child as a resource for interaction between in-laws in Japanese casual conversation
3 . 学会等名
The 15th meeting of International Pragmatics Association(国際学会)
4. 発表年
2019年
2019年

1 . 発表者名
Endo, Tomoko
2.発表標題
Bodily behavior as constructional meaning: The case of benefactive construction in Japanese family interaction
3.学会等名
The 15th meeting of International Cognitive Linguistics Conference(国際学会)
4.発表年
2019年
20194
1.発表者名
遠藤智子
2.発表標題
認識動詞を用いた話し手の態度表明:認識的モダリティと認識的スタンス
3.学会等名
第37回 日本英語学会
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
遠藤智子
2.発表標題
英語学習活動の相互行為における知識や理解の交渉:イントロダクション
3 . 学会等名
日本語用論学会
4.発表年
2019年
1.発表者名
柴﨑礼士郎
2.発表標題
4 · 元以示応 佐藤本ル L 十年ルの知知について、英語中にもはて Ab a /m / O m m ab *** ***
統語変化と主観化の解釈について‐英語史における the/my/O question is の考察に基づいて‐
3.学会等名
2019年度 構文研究会
4 . 発表年
2019年
2010—

1.発表者名
Shibasaki, Reijirou
2.発表標題
Another look at formulaicity: The case of the bottom line is (that) in British and American English
3. 学会等名
Workshop on Formulaicity and Referentiality in Discourse(国際学会)
4.発表年
2019年
1
1 . 発表者名 柴﨑礼士郎
N-3 ID T NP
2.発表標題
言語接触と文法化について 近現代語の比較構文を事例として
3 . 学会等名
第4回 日本語と近隣言語における文法化
<i>A</i>
4 . 発表年 2019年
2010—
1.発表者名
1.発表者名 Shibasaki, Reijirou
Shibasaki, Reijirou
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題
Shibasaki, Reijirou
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)
2. 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4. 発表年 2019年
2. 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4. 発表年 2019年
2. 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4. 発表年 2019年
2. 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4. 発表年 2019年
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Shibasaki, Reijirou
2. 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4. 発表年 2019年
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Shibasaki, Reijirou
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Shibasaki, Reijirou
2. 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4. 発表年 2019年  1. 発表者名 Shibasaki, Reijirou  2. 発表標題 The fact remains is that spontaneity and sequentiality account for the amalgamation
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Shibasaki, Reijirou
2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The fact remains is that spontaneity and sequentiality account for the amalgamation  3 . 学会等名 The 16th International Pragmatics Conference (The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong) (国際学会)
Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The fact remains is that spontaneity and sequentiality account for the amalgamation  3 . 学会等名 The 16th International Pragmatics Conference (The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong) (国際学会)  4 . 発表年
2 . 発表標題 The question remains is whether constructions are in the making: Constructionalization in Present-day American English  3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (ICLC-15, Kwansei Gakuin University, Nishinomiya, Japan) (国際学会)  4 . 発表年 2019年  1 . 発表者名 Shibasaki, Reijirou  2 . 発表標題 The fact remains is that spontaneity and sequentiality account for the amalgamation  3 . 学会等名 The 16th International Pragmatics Conference (The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong) (国際学会)

1.発表者名
Shibasaki, Reijirou
2. 発表標題 From punctuation to pragmatic marker, period: Written language as a source of language change
Dictionary Society of North America 22 / Studies in the History of the English Language 11 (Indiana University, Bloomington) (国際学会)
- (国际子云) 4.発表年
2019年
1.発表者名
Nakayama, Toshihide and Fumino Horiuchi
2.発表標題
Dynamic emergence of referents in conversation
16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4.発表年
2019年
1.発表者名 Nakayama, Toshihide
Talley alley 100 mm to
2.発表標題
Reexamining the Complexity of Collaboration in Documentation and Revitalization Research
্য ক্রেক্ট   International Interdisciplinary Conference 2019 "On the Move: Indigenous Knowledge, Language and Culture, Tourism and
Creative Economy in Asia and Beyond" (国際学会)
4.発表年 2019年
1.発表者名 中山俊秀
中山夜污
2.発表標題
言語創発学への道のり
3 . 学会等名   第16回 話しことばの言語学ワークショップ(招待講演)
4 . 発表年   2019年

4 B=20
1.発表者名 中山俊秀
ヌートカ語(カナダの消滅危機先住民言語)の魅力と深み‐ちょっと「想定外」の文法を楽しむ
3 . 学会等名 東北大学大学院情報科学研究科言語変化・変異研究ユニット講演会(招待講演)
宋心人子人子院间報付子听九代言語女化"女共听九斗…"》「确决云(拍付确决 <i>)</i> 
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
中山俊秀
2.発表標題
言語の類型化の面白みと落とし穴
3.チムサロ   東北大学大学院情報科学研究科言語変化・変異研究ユニットチュートリアル(招待講演)
4.発表年 2019年
20134
1 . 発表者名
中山俊秀,伝康晴,細馬宏通,木村大治
~・光な標題   言語創発学の試みー言語の個人基盤と社会性をつなげるインターフェイスの解明に向けてー
3.学会等名
社会言語科学会第44回大会
4.発表年
2019年
1.発表者名
2.発表標題
多様な個人の多様な文法がまとまるメカニズムを考える
2
3.学会等名 「文法の動的体系性を探る (1):文法の多重性と分散性」2019年度第1回研究会
4 . 発表年
2019年

1.発表者名 Yokomori, Daisuke
2. 発表標題 When to withhold a reference to a head noun: a study of turn-final use of the complementizer toiu/tteyuu in Japanese conversation
3.学会等名 The 16th International Pragmatics Conference(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 鈴木亮子
2.発表標題 会話における繰り返し:動的なスタンス構築
3 . 学会等名 日本英語学会第37回大会
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 Ono, Tsuyoshi and Sandra Thompson
2.発表標題 Reference as a dynamic and fluid phenomenon in conversation
3. 学会等名 16th International Pragmatics Conference(国際学会)
4.発表年 2019年
1 . 発表者名 Daiju, Saori and Tsuyoshi Ono
2.発表標題 A study of Japanese question words in specifying and telling questions: nani and post-positional grammatical particles
3.学会等名 16th International Pragmatics Conferenc(国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名
Takanashi, Hiroko
Emergent Parallelism in Walking Tour Discourse with International Tourists
Line rgent i ararrerisii in warking four biscourse with international four ists
3.学会等名
The 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4 . 発表年
2019年
1. 発表者名
Nakano, Hiroyuki and Takanashi Hiroko
2. 発表標題
The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa
Barbara
3.学会等名
The 13th International Conference of the Eastern Asia Society for Transportation Studies (国際学会)
The 15th International Conference of the Lastern Asia Society 16th Transportation Studies (国际子区)
4.発表年
2019年
20.0
1.発表者名
中野宏幸・髙梨博子
12.21
2.発表標題
観光地域のアイデンティティのミクロ的基礎とマクロとの相互循環 海外都市の「街の再発見のアプローチ」に着目して
- W. J. W. L.
3 . 学会等名
日本交通学会第78回研究報告会
4.発表年 - 2010年
2019年
1 改主之々
1.発表者名
高梨博子
2.発表標題
・ 親光場面の対話におけるスタンス行為
MARK OF SOUTH
3 . 学会等名
日本英語学会第37回大会
4. 発表年
2019年

1 . 発表者名 高梨博子
2 . 発表標題 観光の詩的パフォーマンス:日米欧の都市の事例から
3 . 学会等名 愛知大学人文社会学研究所シンポジウム「ことばの詩、生活の詩、社会の詩 日常の中のポエティックス」(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 中野宏幸・髙梨博子
2.発表標題
2 . 光衣標題 インバウンド旅行客との対話・コミュニケーション 共感、そして、楽しみの創出
3 . 学会等名 小田原・箱根SGGクラブ12月例会(招待講演)
4.発表年
2019年
1.発表者名
堀内ふみ野
2.発表標題
子どもの前置詞句単独発話:談話的文脈と前置詞ごとの相違の観点から
3.学会等名 日本英語学会第37回大会
4.発表年
2019年
1.発表者名
Nakayama, Toshihide
2.発表標題
2 . 完衣標題 Reflections on working with an endangered language community in Japan
3.学会等名 Third International Conference on Documentary Linguistics - Asian Perspectives(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名
Nakayama, Toshihide
2 2 4 4 1 5
2 . 発表標題
Problematizing language and revitalization: Why language documentation hits a wall in revitalization
2 24.474
3 . 学会等名
International Symposium on Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and
Revitalization(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
Nakayama, Toshihide
2.発表標題
Reframing referentiality in interaction: From 'pointing' to 'synchronized attention'
3.学会等名
International Workshop on Referentiality(国際学会)
4 . 発表年
2018年
1. 発表者名
1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide 2.発表標題
Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide 2.発表標題
Nakayama, Toshihide 2.発表標題
Nakayama, Toshihide 2.発表標題
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture  3 . 学会等名
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年
Nakayama, Toshihide  2. 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3. 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4. 発表年 2018年  1. 発表者名 Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年  1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide  2. 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3. 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4. 発表年 2018年  1. 発表者名 Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年  1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年  1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年  1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Multiplicity in grammar: How do we need to change the way we think about grammar?
Nakayama, Toshihide  2.発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3.学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4.発表年 2018年  1.発表者名 Nakayama, Toshihide  2.発表標題 Multiplicity in grammar: How do we need to change the way we think about grammar?
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of langauge and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年  1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Multiplicity in grammar: How do we need to change the way we think about grammar?  3 . 学会等名 Japanese/Korean Conference: Pre-conference workshop on Multiplicity in Language and Multiple Grammars (招待講演) (国際学
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年  1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Multiplicity in grammar: How do we need to change the way we think about grammar?  3 . 学会等名 Japanese/Korean Conference: Pre-conference workshop on Multiplicity in Language and Multiple Grammars (招待講演) (国際学会)
2.発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture  3.学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4.発表年 2018年  1.発表者名 Nakayama, Toshihide  2.発表標題 Multiplicity in grammar: How do we need to change the way we think about grammar?  3.学会等名 Japanese/Korean Conference: Pre-conference workshop on Multiplicity in Language and Multiple Grammars (招待講演) (国際学会)  4.発表年
Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Different ways of contributing to conservation and revitalization of language and culture  3 . 学会等名 Workshop on Conservation and Revitalization of Community Language and Culture (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2018年  1 . 発表者名 Nakayama, Toshihide  2 . 発表標題 Multiplicity in grammar: How do we need to change the way we think about grammar?  3 . 学会等名 Japanese/Korean Conference: Pre-conference workshop on Multiplicity in Language and Multiple Grammars (招待講演) (国際学会)

1 . 発表者名 Endo, Tomoko, Anna Vatanen, and Daisuke Yokomori
2 . 発表標題 Cross-linguistic investigation of projection in overlapping agreements to assertions
3 . 学会等名 The 5th International Conference on Conversation Analysis (国際学会)
4 . 発表年 2018年
1 . 発表者名 Chen, Li, & Daisuke Yokomori
2 . 発表標題 Display of understanding by understanding check: A study of Japanese utterance-final use of the quotative particle TO
3 . 学会等名 5th International Conference on Conversation Analysis (国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 Yokomori, Daisuke
2.発表標題 Problem statements with KEDO in Japanese talk-in-interaction
3 . 学会等名 5th International Conference on Conversation Analysis(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1 . 発表者名 Endo, Tomoko, Anna Vatanen, and Daisuke Yokomori
2 . 発表標題 Two levels of projection: cross-linguistic investigation of agreeing overlapping response
3.学会等名 The 3rd International Conference on Interactional Linguistics and Chinese Language Studies(国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名
横森大輔
2.発表標題
談話標識への会話分析的アプローチ:情報を受けとめるreallyを中心に
3 . 学会等名 日本英文学会九州支部第71回大会,シンポジウム第3部門(英語学)『談話標識研究へのアプローチ』
4 . 発表年 2018年
20104
1. 発表者名
Shibasaki, Reijirou
2.発表標題
Flexibility of temporal nouns in Japanese: With special reference to shunkan '(at the) moment'
3 . 学会等名 Referentiality Workshop (University of Alberta, Canada) (国際学会)
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
Shibasaki, Reijirou
2.発表標題
From a clause-combining conjunction to a sentence-initial adverbial connector in the history of Japanese: With special
attention to totan(-ni) 'at the moment'
3.学会等名
The 26th Japanese/Korean Linguistics Conference (JK26) (University of California at Los Angeles (UCLA), Nov 29 to Dec 1, 2018)(国際学会)
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
柴﨑礼士郎
2 杂主価語
2 . 発表標題 文頭副詞「とたん(に)」に関する一考察
3.学会等名
「第3回 日本語と近隣言語における文法化ワークショップ (GJNL-3)」(東北大学川内南キャンパス)
4.発表年
2018年

1.発表者名
Shibasaki, Reijirou
5.11545411, 161,1164
2 . 発表標題
From nominal predicates pragmatic markers in the history of Japanese With special reference to East Asian languages (Plenary
lecture)
3 . 学会等名
International Conference on Current Trends in Linguistics (CTL) (University of Reuen (Université de Rouen)(招待講
演)(国際学会)
4 . 発表年
2019年
20.0 (
1 . 発表者名
土屋智行
o TV-1-FEE
2.発表標題
文頭に出現するMWEの談話標識らしさ
3 . 学会等名
日本英文学会九州支部第71回大会(招待講演)
4 . 発表年
2018年
20104
1.発表者名
Tsuchiya, Tomoyuki
2 . 発表標題
Euphemistic Use of NPs in Japanese Proverbs
3 . 学会等名
Referentiality Workshop (University of Alberta) (国際学会)
4 70±/r
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
Tsuchiya, Tomoyuki
2 . 発表標題
Processing Conventionalized Sequences
3. 学会等名
No.150 Shonan Meeting(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2019年
·

1. 発表者名
Endo, Tomoko
2.発表標題
Ancestor or Grandpa: Referential forms in Japanese household shinto ritual
3.学会等名
Referentiality Workshop (University of Alberta)(国際学会)
4.発表年
2018年
1.発表者名
遠藤智子・高田明
2 . 発表標題
子ども養育者相互行為における活動の中の指さし
3 . 学会等名
社会言語科学会
2018年
1.発表者名
Tan Date
~ : 元代()
グラ時にVX主に V'C・日市AM日 ハハモ用Vルル・ログ・ログ
3 · チムヤロ   シンポジウム『日常会話コーパス IV』
フノかノフA 日市公明日 ハヘ IV』 
4.発表年
4 · 光农牛   2019年
2013 <del>" </del>
1 改主业权
1.発表者名
Suzuki, Ryoko
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2 . 発表標題
Referentiality in Predicate Nominals in Japanese Conversation
3.学会等名
Referentiality Workshop (University of Alberta)(国際学会)
4.発表年
2018年

1.発表者名 ※本、亮子
鈴木 亮子
2.発表標題
反応表現のさまざまな姿
3.学会等名
シンポジウム『日常会話コーパス IV』(招待講演)
4.発表年
2019年
1. 発表者名
Suzuki, Ryoko
2.発表標題
Question tags and response particles in Japanese interactions are quite regular or are they?
3 . 学会等名
DFG Scientific Network Meeting "Interactional Linguistics- Discourse particles from a cross-linguistic perspective."(招待
講演)(国際学会)
4.発表年 2019年
۷۱۱۶ <del>۹-</del>
1.発表者名
遠藤智子
2 . 発表標題
中国語を対象とする機能主義言語学・会話分析の展開
3.学会等名
3 · 子云寺石 第7回名古屋大学大学院人文学研究科 言語学分野公開講演会(招待講演)
4. 発表年
2018年
1
1.発表者名 遠藤智子
2. 改革 横陌
2.発表標題
中国語のクリックと参与スタンス
3.学会等名
3.学会等名 第7回動的語用論研究会(招待講演)
第7回動的語用論研究会(招待講演)
第7回動的語用論研究会(招待講演) 4.発表年
第7回動的語用論研究会(招待講演) 4.発表年
第7回動的語用論研究会(招待講演) 4.発表年

1.発表者名
遠藤智子
2.発表標題
参与構造の創発に関わる諸要因の整理に向けて
J. H. COMPONENT CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF
3.学会等名
シンポジウム「日常会話コーパスIII」
. The day has
4 . 発表年
2018年
1
1.発表者名 Endo, Tomoko
LIIUO, TOIIIUNO
2.発表標題
Infant's pointing and participation framework
3.学会等名
The 1st Seminar on the Development of Intersubjective Recognition(招待講演)(国際学会)
4.発表年
4. 光表年 2018年
4V1V <del>T</del>
1.発表者名
Endo, Tomoko and Yokomori Daisuke
2. de, Teliotte d'il Tottoile I Pareute
2.発表標題
Interactional functions of verbalizing troubles: Self-addressed questions in Japanese conversation
3.学会等名
っ・子云寺石 The 25th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
The Zeth dapanese/Notean Emigristres vointerence (国際子女)
4.発表年
2017年
1.発表者名
Endo, Tomoko
2. 7V ± 450 PG
2.発表標題 The Brandonting to come Construction in January Child consists January Internation
The Benefactive -te ageru Construction in Japanese Child-caregiver Interaction
3.学会等名
International Pragmatics Association Conference (国際学会)
( min/ 1 m/
4.発表年
2017年

1 . 発表者名 Korenaga, Ron, Ippei Mori, Tomoko Endo, Satoru Ikegami, Kei Aoyama, Akio Tomita, Yoko Morimoto, Asako Ohara
2. 発表標題 Practice of learning through children-caregiver interaction: A case of cleaning-up activity
3 . 学会等名 International Institute of Ethnomethodology and Conversation Analysis (国際学会) 4 . 発表年
2017年
1 . 発表者名 Mak Suyin, Hiroko Nishida & Daisuke Yokomori
2 . 発表標題 Playing with Metaphors: A cross-cultural study of string quartet rehearsal communication in Hong Kong and Japan
3 . 学会等名 Society for Ethnomusicology 62nd Annual Meeting(国外)(国際学会)
4 . 発表年 2017年
1 . 発表者名
2.発表標題 会話における「と文末」を用いた理解確認
3 . 学会等名 第40回社会言語科学会研究大会
4 . 発表年 2017年
1.発表者名 西田紘子、横森大輔
2 . 発表標題 室内楽の練習場面におけるメタファー表現の使用:概念領域と身体動作の傾向を中心に
3.学会等名 日本認知科学会第34回大会
4 . 発表年 2017年

. 78 + 1.6
1.発表者名 横森大輔
2 . 発表標題 グループ(ワーク)の創発とリスナーシップ
3 . 学会等名 第129回次世代大学教育研究会
4 . 発表年 2017年
1.発表者名 横森大輔
2 . 発表標題 会話におけるトラブルへの言及と発話フォーマット
3 . 学会等名 シンポジウム「日常会話コーパス III」
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 Nakayama, Toshihide
2.発表標題 Fluctuating robustness of nominal phrases in Nuuchahnulth
3 . 学会等名 15th International Pragmatics Conference(国際学会)
4 . 発表年 2017年
1.発表者名
中山俊秀
2.発表標題
言語知識はどのような形をしているのか
3 . 学会等名
日本認知言語学会第18回全国大会 4.発表年
2017年

1.発表者名
堀内ふみ野、中山俊秀
2.発表標題
会話から見る文法体系の多重性:日本語の日常会話を例にして
3 . 学会等名
第6回動的語用論研究会(招待講演)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
中山俊秀
2 . 発表標題
会話に見られる言語表現の文法的特異性
3 . 学会等名
日本英語学会第35回大会(招待講演)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
Shibasaki, Reijiro
2 . 発表標題
On the Rise of douride 'no wonder' as a Projector and the Reformulation of Discourse Sequential Relations in Japanese
,
3 . 学会等名
The 25th Japanese/Korean Linguistics Conference (Honolulu, Hawai'i) (国際学会)
4.発表年
2017年
1.発表者名
柴﨑礼士郎
<b>小『7   し上 以</b> 『
2.発表標題
「述部から創発する独立型表現に関する予備的研究 近現代日本語の「道理で」を事例として - 」
たいかしかかっては土状状に対する「開けいた」と述い日午的サールを手切しして「」
3 . 学会等名
3 : チムサロ 話しことばの言語学ワークショップ
明して「ほか口間ナノーノノコノノ
4 . 発表年
2018年
4VIVT

1 . 発表者名 土屋智行
2 . 発表標題 網羅的なパターン束分析からみる構文の状況依存性
3.学会等名 言語処理学会
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 土屋智行
2.発表標題 言語環境に応じた言語知識の活性化
3.学会等名 日本英語学会第35回大会(招待講演)
4 . 発表年 2017年
1.発表者名 鈴木亮子
2 . 発表標題 ぎざじゅうアピール:言語の定形性と創造性
3 . 学会等名 名古屋大学言語学分野公開講演会(招待講演)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 Suzuki, Ryoko
2 . 発表標題 Predicate-centered view of NPs: A case study in Japanese conversation
3 . 学会等名 15th International Pragmatics Conference(国際学会)
4 . 発表年 2017年

[図書] 計26件	
1 . 著者名	4.発行年
Tao, Hongyin and Ryoko Suzuki	2022年
2.出版社	5.総ページ数
Equinox	196
The pragmatics of creative language use in East Asian languages, Special Issue of East Asian	
Linguistics	
	-
1. 著者名	4.発行年
小川芳樹,中山俊秀	2022年
2 . 出版社	5.総ページ数
開拓社	445
3 . 書名	
コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論 3	
	•
1.著者名 渡辺拓人・柴崎礼士郎(編)	4 . 発行年 2023年

1 . 著者名   渡辺拓人・柴﨑礼士郎(編) 	4 . 発行年 2023年
2 . 出版社 開拓社	5.総ページ数 189
3.書名 『英語史における定型表現と定型性』	

1.著者名 Tsuchiya, Tomoyuki, Reijirou Shibasaki, Ryoko Suzuki and Tsuyoshi Ono (eds.)	4 . 発行年 2023年
2. 出版社 De Gruyter Mouton	5.総ページ数 160
3.書名 Formulaicity in Japanese interactional discourse Special issue of Journal of Japanese Linguistic, 39	

1.著者名	4 . 発行年
高梨博子	2022年
2 . 出版社	5.総ページ数
ひつじ書房	312
3.書名 『ポエティクスの新展開 プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて』片岡邦好・武黒麻紀子・榎本剛士 (編),分担,「観光のエスノポエティクス 並行性と響鳴による詩的実践」	
1.著者名	4 . 発行年
Horiuchi, Fumino	2022年
2.出版社	5 . 総ページ数
Hituzi Syobo	<sup>224</sup>
3.書名 English Prepositions in Usage Contexts: A Proposal for a Construction-Based Semantics	
1.著者名	4 . 発行年
Takanashi, Hiroko	2021年
2.出版社	5.総ページ数
Routledge	<sup>248</sup>
3.書名 Language and Intercultural Communication in Tourism: Critical Perspectives	
1.著者名	4 . 発行年
Haselow, Alexander and Sylvie Hancil (editors), Reijirou Shibasaki (Chapter 4)	2021年
2. 出版社	5.総ページ数
John Benjamins	<sup>354</sup>
3.書名 Studies at the Grammar-Discourse Interface: Discourse markers and discourse-related grammatical phenomena	

1.著者名	4.発行年
	4 . 光1]年   2021年
天野みどり・早瀬尚子(編),柴﨑礼士郎(第4章)	20214
2.出版社	5.総ページ数
ここの成代	296
3,書名	
『構文と主観性』	
ガヘーーがはら	
	_
1. 著者名	4.発行年
Rhee, Seongha, Reijirou Shibasaki, Xinren Chen (Introduction), Xiao He, Reijirou Shibasaki,	2021年
Seongha Rhee, Yuko Higashiizumi, Keiko Takahashi, Sujin Eom, Seongha Rhee, Hyun Sook Lee	
2.出版社	5.総ページ数
Equinox	151
3.書名	
East Asian Pragmatics Vol. 6 No. 3 (2021): Special Issue: Grammaticalisation of Discourse	
Markers in East Asian Languages	
1.著者名	4.発行年
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)	2021年
	2021年
	2021年
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)	
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編) 2.出版社	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)	
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編) 2.出版社	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2.出版社 ひつじ書房	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2. 出版社 ひつじ書房  3.書名	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2.出版社 ひつじ書房	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2. 出版社 ひつじ書房  3.書名	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2. 出版社 ひつじ書房  3.書名	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2. 出版社 ひつじ書房  3.書名	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2. 出版社 ひつじ書房  3.書名	5 . 総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2.出版社 ひつじ書房  3.書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	5.総ページ数 268
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2.出版社 ひつじ書房  3.書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	5 . 総ページ数 268 4 . 発行年
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2.出版社 ひつじ書房  3.書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	5.総ページ数 268
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2.出版社 ひつじ書房  3.書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	5 . 総ページ数 268 4 . 発行年
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2.出版社 ひつじ書房  3.書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	5 . 総ページ数 268 4 . 発行年
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki	5 . 総ページ数 268 4 . 発行年 2021年
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki	5 . 総ページ数 268 4 . 発行年 2021年
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社 John Benjamins	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社 John Benjamins	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社 John Benjamins	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社 John Benjamins  3 . 書名	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社 John Benjamins  3 . 書名	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数
内田諭・大賀哲・中藤哲也(編)  2 . 出版社 ひつじ書房  3 . 書名 知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング  1 . 著者名 Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury, and Ryoko Suzuki  2 . 出版社 John Benjamins	5.総ページ数 268 4.発行年 2021年 5.総ページ数

1. 著者名 Suraratdecha, Sumittra and Toshihide Nakayama	4 . 発行年 2020年
2. 出版社 John Benjamins	5.総ページ数 122
3.書名 Documentary Linguistics: Working with Communities	
1.著者名 中山俊秀,大谷直輝	4 . 発行年 2020年
2 . 出版社 ひつじ書房	5.総ページ数 395
3.書名 認知言語学と談話機能言語学の有機的接点:用法基盤モデルに基づく新展開	
1 . 著者名 Laury, Ritva and Tsuyoshi Ono	4 . 発行年 2020年
2.出版社 John Benjamins	5.総ページ数 238
3.書名 Fixed Expressions: Building language structure and social action	
1 . 著者名	Ⅰ 4.発行年
Ono, Tsuyoshi and Sandra Thompson	2020年
2. 出版社 John Benjamins	5.総ページ数 366
3.書名 The 'Noun Phrase' across Languages: An emergent unit in interaction	

1 . 著者名	4.発行年
土屋智行	2020年
2.出版社	5.総ページ数
ひつじ書房	131
3 . 書名	
言語と慣習性 ーことわざ・慣用表現とその拡張用法の実態	
	77.4
1. 著者名	4 . 発行年
Li, Xiaoting and Tsuyoshi Ono	2019年
	- 40 0 2 200
2. 出版社	5.総ページ数
De Gruyter Mouton	335
3.書名	
Multimodality in Chinese Interaction	
4 ****	4 36/-/ <del>-</del>
1.著者名	4.発行年
ジョーン・バイビー(著)、小川芳樹、柴崎礼士郎(監訳)	2019年
2 шис≯і	「
2.出版社	5.総ページ数
開拓社	464
つ 妻々	
3.書名	
言語はどのように変化するのか	
	l
1.著者名	4 ※行生
	4 . 発行年
Ono, Tsuyoshi, Ritva Laury and Ryoko Suzuki	2019年
2.出版社	
John Benjamins	253
つ 事々	
3 .書名	
Usage-based and Typological Approaches to Linguistic Units (Studies in Language, Special Issue)	

1 . 著者名	4 . 発行年 2018年
2.出版社         ひつじ書房	5 . 総ページ数 336
3.書名 聞き手行動のコミュニケーション学	
1.著者名 平本毅,横森大輔,增田将伸,戸江哲理,城綾実(編)	4 . 発行年 2018年
2 . 出版社 ひつじ書房	5 . 総ページ数 <sup>286</sup>
3.書名 会話分析の広がり	
1.著者名	4.発行年
Cuyckens, Hubert, Hendrik De Smet, Leisbet Heyvaert, and Charlotte Maekelberghe. (eds.)	2018年
2.出版社 John Benjamins	5 . 総ページ数 312
3.書名 Explorations in English Historical Syntax	
1.著者名 Hancil, Sylvie, Tine Breban and Jose Vincente Lozano (eds.)	4 . 発行年 2018年
2.出版社 John Benjamins	5 . 総ページ数 433
3.書名 New Trends in Grammaticalization and Language Change	

4 ****	4 367-F
│ 1.著者名	4 . 発行年
土屋智行	2019年
	2010—
2.出版社	5.総ページ数
ひつじ書房	152
3.書名	
│ 異分野融合研究のためのテキストマイニング:基礎と実践	
	='
4 ***	4 78/- /-
1.著者名	4 . 発行年
1.看有石   鈴木亮子・秦かおり・横森大輔	2017年
鈴木亮子・秦かおり・横森大輔	2017年
鈴木亮子・秦かおり・横森大輔	2017年
鈴木亮子・秦かおり・横森大輔 2.出版社	2017年 5.総ページ数
鈴木亮子・秦かおり・横森大輔	2017年
鈴木亮子・秦かおり・横森大輔 2.出版社	2017年 5.総ページ数
鈴木亮子・秦かおり・横森大輔 2.出版社	2017年 5.総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔  2.出版社 ひつじ書房	2017年 5.総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔  2.出版社 ひつじ書房	2017年 5.総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔         2.出版社         ひつじ書房         3.書名	2017年 5 . 総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔  2.出版社 ひつじ書房	2017年 5 . 総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔         2.出版社         ひつじ書房         3.書名	2017年 5 . 総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔         2.出版社         ひつじ書房         3.書名	2017年 5 . 総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔         2.出版社         ひつじ書房         3.書名	2017年 5.総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔         2.出版社         ひつじ書房         3.書名	2017年 5.総ページ数
会木亮子・秦かおり・横森大輔         2.出版社         ひつじ書房         3.書名	2017年 5.総ページ数

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

<u> </u>	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	遠藤 智子	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授	
研究分担者	(Endo Tomoko)		
	(40724422)	(12601)	
	中山 俊秀	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授	
研究分担者	(Nakayama Toshihide)		
	(70334448)	(12603)	
	横森 大輔	京都大学・国際高等教育院・准教授	
研究分担者	(Yokomori Daisuke)		
	(90723990)	(14301)	

6.研究組織(つづき)

	・竹九組織(フラさ)		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	土屋 智行	九州大学・言語文化研究院・准教授	
研究分担者			
	(80759366)	(17102)	
	柴崎 礼士郎	明治大学・総合数理学部・専任教授	
研究分担者	(Shibasaki Reijiro)		
	(50412854)	(32682)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	高梨 博子	日本女子大学・文学部英文学科・教授	
研究協力者	(Takanashi Hiroko)		
	(80551887)		
	堀内 ふみ野	大東文化大学・経済学部社会経済学科・講師	2023年4月より日本女子大学文学部英文学科准教授
研究協力者	(Horiuchi Fumino)		
	(80827535)		
研究協力者	大野 剛 (Ono Tsuyoshi)	アルバータ大学(カナダ)・Faculty of Arts, East Asian Studies Department・Professor	
研究協力者	陶 紅印 (Tao Hongyin)	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米国)・Department of Asian Languages &Cultures・Professor	

## 7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会	開催年
International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2022	2022年~2022年
国際研究集会	開催年
International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse	2021年~2021年

国際研究集会	開催年
Fixed Expressions Workshop	2018年~2018年
国際研究集会	開催年
International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse 2023	2023年~2023年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	University of California, Los Angeles			
フィンランド	University of Helsinki			
カナダ	University of Alberta			
フィンランド	University of Turku			